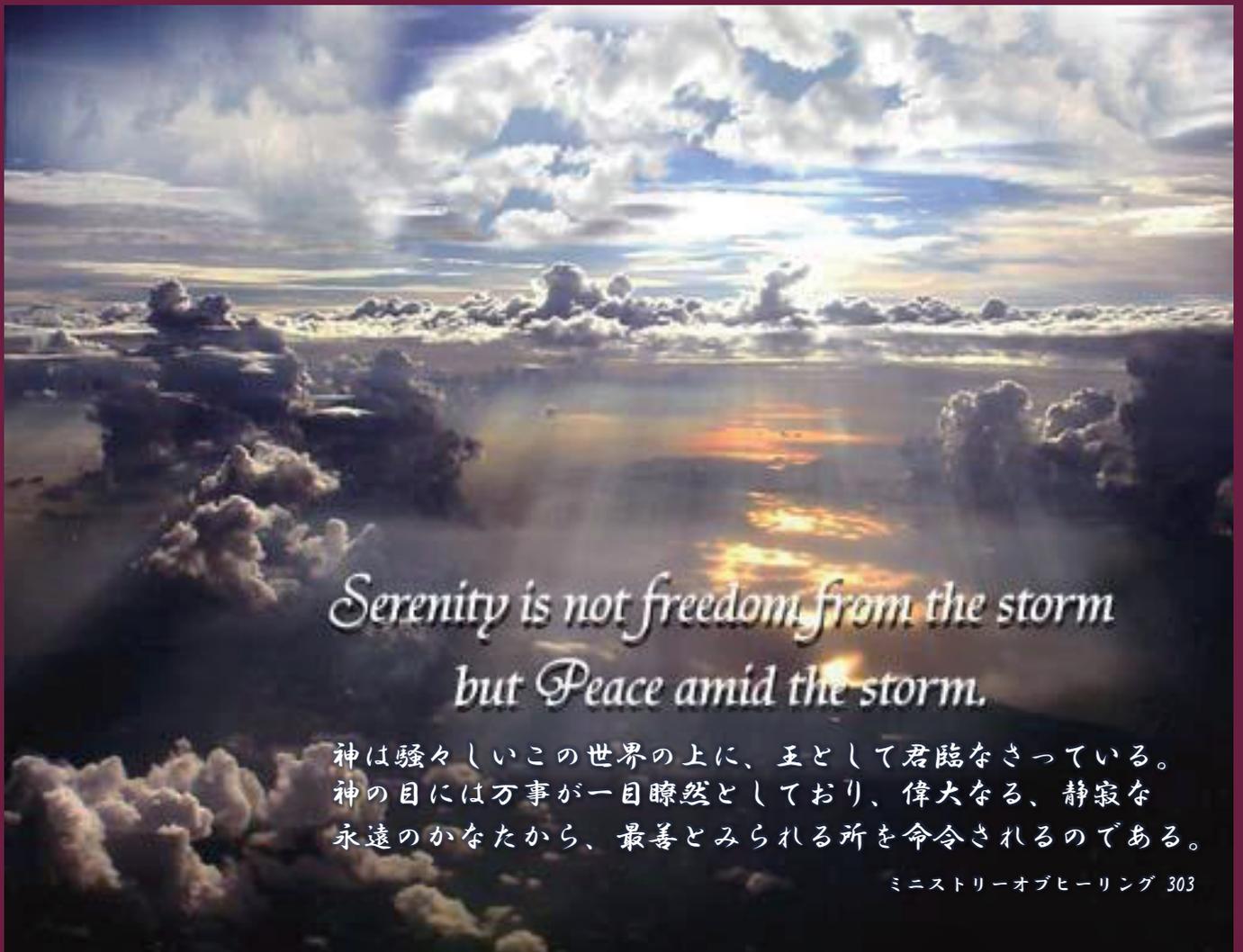




SUNRISE MINISTRY

アンカー

Anchor



*Serenity is not freedom from the storm
but Peace amid the storm.*

神は騒々しいこの世界の上に、王として君臨なさっている。
神の目には万事が一目瞭然としており、偉大なる、静寂な
永遠のかなたから、最善とみられる所を命令されるのである。

ミニストリーオブヒーリング 303



クリスマスの由来 異教からカトリックへ、そして全世界へ

新興教会 (エマージング・チャーチ) と

霊性形成 (スピリチュアル・フォーメーション)

東日本の石が叫ぶ! 大震災から学ぶ

世界経済危機

意志—我々の選択、神の力—どのように罪に勝利するのか—

48号

2011年 12月

クリスマス由来

異教からカトリックへ、そして全世界へ…………… 3

金城 重博

新興教会(エマージング・チャーチ)と

霊性形成(スピリチュアル・フォーメーション)…………… 9

ハル・メイヤー

さまざまな教会成長論の波…………… 21

経済危機…………… 22

デイビッド・カン

意志—我々の選択、神の力

—どのように罪に勝利するのか—…………… 30

デニス・プレビー

東日本の石が叫ぶ！大震災から学ぶ…………… 42

金城 重博

編集後記…………… 43

2012年 デイビッド・カンによる沖縄講演会のお知らせ

米国ジョージア・アトランタ在住。

S D A 韓国出身の自給伝道者。米国、韓国、中国など各地に伝道の拠点をもち活動しておられる。

経済危機関連や現代に必要なメッセージを語る講演会がもたれます。



テーマ：未定

日時：2012年 4月25日(水)～28日(土)

場所：那覇市 他 未定

セミナーや安息日礼拝内容はサンライズミニストリーのホームページ上で放送されています。**www.srministry.com**

また、CD、DVDでも収録しております。(※CD、DVDの不良品がある場合は、返送せずにご連絡ください。新しいものをお送りいたします。)

「アンカー」の目的と編集指針

我々は次のことを信じてアンカーを出版している。

1. 我々 SDA の働きと使命は三天使の使命である。(6T 384, 2SM 142)
2. 第三天使の使命は人々をキリスト再臨の栄光の前に立ち得る特別な備えをさせるものである。(9T 98, 大争闘下 140)
3. 第三天使の使命は人々の心を至聖所に向ける。そこにおいて信者は最後の、特別な贖いを受ける。(初代文集 414, 5,7)
4. 我々は神のご計画されたこの特別な祝福、特別な経験を拒み続けてきた。特に1888年以来(RH26, 1890年)
5. ダニエル書 8:14の聖句は再臨信仰の土台であり、み業の完成はこの聖句の正しい理解にかかっている。(生き残る人々 422, EV 221, 5T 575)
6. エレン・G・ホワイトは聖書の預言者と同様の靈感が与えられた預言者である。(1SM 36)
7. 最後の時代の嵐に押し流されないようにさせるアンカー(錨)は、三重の使命、聖所、安息日、人の性質、イエスの証(預言の霊)等である。(初代文集 417, 1T 300)
8. アンカーはリレーの最終走者の意味もある。この世代は福音の働きが信者の中に、外の世界に完成する最後の時代である。不信仰によって、150年も時が延ばされ、イエスの十字架の苦しみを増している。(大争闘下 182, 教育 328) 信仰による義認の体験によって、再臨を早めることをキリストは待っておられる。再臨とみ業完成をこれほど遅らせているのが我々神の民であるとすれば、我々の今日の、義務は何か、約束のものを受ける条件は何なのかを研究し、共に備えたいと思う。
9. セブンスデー・アドベンチストは最後の「残りの民」である。たとえ教会がどんなに背教しようとも、激しい震いの経験をして、純潔な教会となり、永遠の神の目的がこの教会によって達成されると信じている。

サンライズ・ミニストリー

〒905-0428

沖縄県国頭郡今帰仁村今泊 1471

TEL (0980) 56-2783

FAX (0980) 56-2881

E-mail: contact@srministry.com

Web Site: www.srministry.com

郵便振込番号：02080-0-12121

サンライズミニストリー



クリスマスの由来：

異教からカトリックへ、そして全世界へ

金城 重博

1915年、第一次世界大戦の時である。ドイツ軍とイギリス軍はそれぞれ塹壕を掘って、激しい撃ち合いをしていた。その日も両軍とも多くの死者を出し、太陽は静かに沈んでいく。12月24日、クリスマス・イヴ。兵士たちは寒さにふるえながら、遥か祖国の家族のことを思っていた。



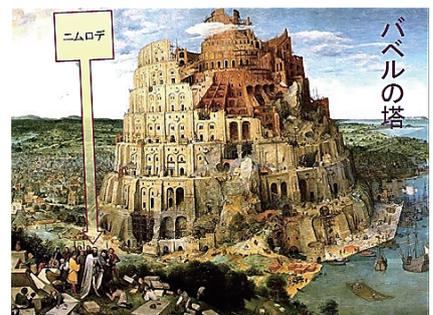
すると突然、ドイツ軍の方から歌声が聞こえてきた。何事かと身構える英国軍に緊張が走る。

次の瞬間、ドイツ側から聴こえてきたのはドイツ語による「Stille Nacht! Heilige Nacht!」シュティレナハト・・ハイリゲナハト・・」、よく知っているクリスマスの歌（きよしこの夜）であった。イギリスの一人の兵士が英語で歌い出すと「オールイズ、カーム、オールイズ、ブライト」と次々に皆が加わった。ドイツ軍とイギリス軍の大合唱となった。やがて双方の兵士たちは、ひとりふたりと銃を置いて、中間地帯に出て行き、相手側とクリスマスの挨拶を交わし、握手を始めた。鉄条網の向こう側にいる敵兵との何とも奇妙な二重唱であった。

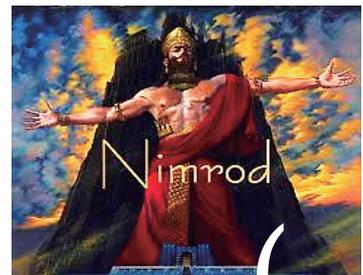


不思議なことではないだろうか？戦争中でも、敵も味方も、無神論国でさえもクリスマスを祝うのである。

ノアにセム、ハム、ヤベテの3人の子がいた。ハムの子はクシ。クシの子にニムロデがいた。その名前は聖書に出てくる。彼はノアの大洪水の約350年後にバベルの塔を建設した。ニムロデという名は、「反逆者」という意味で、世界統一政府の建設を試みた最初の人である。彼はバベル（バビロン）、カラ、エルク、アッカド、カルネアッシリア、ニネベ、レホボデ、レセンの町々を建てた。



創世記 10:8 -9 には「クシの子はニムロデであって、このニムロデは世の権力者となった最初の人である。彼は主の前に力ある狩猟者であった。これから『主の前に力ある狩猟者ニムロデのごとし』ということわざが起った。」と書いてある。



ある著名な聖書解説者はこう言っている：

「彼らは、ここに都市を建設し、世界の驚異となるような巨大な高塔を建てることにした。この企ては、人々が広く離散して住むことを防ぐために考案された。神は、人間が、広く地球上にわかれて住み、地に満ち、地を従わせるように指示されていた。しかし、バベルの建設者たちは、彼らの社会を一つの組織にし、やがて、**全世界を含むに至る帝国**を築こうとした。こうして、**彼らの都市は、世界帝国の首都となる**のであった。その栄光は、世界の人々の賞賛と尊敬をかちえて、建設者の名を有名にするのであった。空高くそびえる壮麗な塔は、建設者の能力と知恵の記念碑として建てられ、彼らの名声を永久に後世の人々に伝えるためであった。」あけぼの上114

彼らの世界統一政府について聖書に書いてある：

「『民は一つで、みな同じ言葉である。彼らはすでにこの事をしはじめた。彼らがしようとする事は、もはや何事もとどめ得ないであろう。さあ、われわれは下って行って、そこで彼らの言葉を乱し、互に言葉が通じないようにしよう』。こうして主が彼らをそこから全地のおもてに散らされたので、彼らは町を建てるのをやめた」創世記11:6-8。

歴史家によると、約 72 の言葉に分かれたと言われている。それから、世界中に散るにしたがってたくさんの言葉に分かれていった。そして今日、6,000-7,000 の異なった言葉があると言う。

これは伝説であるが、クシは死ぬ時、ニムロデとその母セミラミスを結婚させた。来るべきメシヤの預言を知っていたクシは、セミラミスによって子をもうけた。このクシによる子、ニムロデこそ彼らのメシヤであった。自分の子供であり、夫であるニムロデが殺されて後、セミラミスは、夫ニムロデを太陽神にまつりあげたが人々が信じなかったので、女王としての支配権を失うことを恐れた。何年も経ってから、ある祭司との間にこどもを作る。



生まれた子供は、バビロンの神—ニムロデの生まれ変わり、奇跡のタムズが生まれたと人々に信じさせた。その**タムズが生まれたのが 12月 25日**であった。その後セミラミスは『天国の母』として崇められるようになった。

異教の太陽神の誕生日をカトリック教会が取り入れたのである。それは世界各地に広がり、人々は天の女神が救い主であるわが子を抱いている像を拝むようになった。そうした偶像は世界各地で発掘されている。今も、この伝説一母子観音像を礼拝している。日本の慈母観音もそうである。カトリックはイースターも、ハロウィーンも異教の祭りから取り入れたのである。カトリック教会は日曜礼拝も霊魂不滅説も異教から取り入れ、プロテスタント教会はこの二大誤謬をそのまま引き継いでいる。



ヨハネ・パウロ2世はマリヤ崇拜の第一人者である。これは偶像礼拝以外の何物でもない。



現代バベルの塔の建設者たち



「バビロン」は「バベル」から来た。「混乱」という意味である。黙示録のバビロンは、この地上の新世界秩序構築を狙う巨大組織である。黙示録 17:5, 13 ; 18 章

キリストはいつ誕生されたか？

(参考文献：レムナント紙 1999 年 1 月号)

キリストが誕生されたのは、**仮庵の祭（かりいおのまつり；9～10月頃）**だった。それは、聖書の記述からはっきりと分かる。

ルカ福音書では、イエスの誕生の半年前にバプテスマのヨハネが誕生したことが記されている。ヨハネの父ザカリヤは、アビヤの組の祭司だった (1:5)。

アビヤの組の祭司は、第 8 組に属し、イスラエル神殿での奉仕は、ユダヤ暦第 4 の月の後半に定められていた (歴代志上 24:7-19 に、神殿で奉仕する祭司の当番表が記されている)。

祭司ザカリヤの妻エリサベツがヨハネを懐胎したのは、「務めの期間が終わったのち」(1:23)であった。つまり、ユダヤ暦第 5 の月のはじめであった。

それから 5 カ月後、彼女が妊娠 6 カ月目に入ったときに、イエスの母マリヤがみごもった (1:24-26)。つまり、ユダヤ暦第 10 の月 (グレゴリウス暦 12-1 月) であった。

そして、「月が満ちて」イエスが誕生された (2:6)。これは、エリサベツと同様約 9 カ月後であった (1:56-57, 2:6)。つまり、イエスが誕生されたのは、ユダヤ暦第 7 の月 (グレゴリウス暦 9-10 月) であることがわかる。

さて、この第 7 の月には、仮庵の祭りが行われていた。

イエスの誕生の時期を仮庵の祭りの頃とすると、聖書の他の記述と調和する。

- (1) 野営していた羊飼いたちの前にイエスの誕生を知らせる御使いが現れるが、太陽暦の 12 月 25 日頃には野営は行われぬ。ユダヤの口伝律法ミシュナーによれば、牧童たちが野営できる季節は、初めの雨 (秋の雨；申命記 1:14、ヨエル 2:23) までの期間であり、11 月以降は、寒さのために野営しないと記されている。

- (2) 仮庵の祭りの時期、人々は祭りを祝うために全国からエルサレムに上京した。エルサレム近郊の町ベツレヘムには、多くの上京者が宿をとっていたため、マリヤは馬小屋で出産せざるを得なかった。

- (3) 「仮庵 (σκηνη)」の動詞形「仮に宿る (σκηνω)」は、ヨハネ福音書においてイエスの受肉を表す言葉として使用されている。

「また、ロゴス (言) は肉体となり、わたしたちの間に仮に宿られた (εσκηνωσεν)。」 (1:14)

- (4) 「仮庵 (σκηνη)」のヘブル対応語 mishkan は、旧約聖書の「幕屋」を意味する。幕屋は、イスラエルが出エジプトの際に神礼拝を行った場所であり、パレスチナ定住後、ソロモンの時代に神殿となった。

新約聖書において、イエスの肉体こそが真の幕屋、神殿であるとされている (マタイ 26:61、マルコ 14:58)。

キリストの誕生日を 12 月 25 日としたのは、紀元 4 世紀、ローマ皇帝コンスタンチヌス帝によるニケア宗教会議においてであり、当時祝われていたローマ太陽神の冬至祭、タンムズ神の祭日である土星祭をすたれさせ、キリスト教の祭りを栄えさせる意図があったものと思われる。

したがって、1 月 1 日がキリストの割礼日とすることも誤りであると言えるのである。

イエス・キリストについての預言

キリストの誕生、生涯、死、復活について、300 以上も預言されていたことがことごとく成就した。たとえば：イスラエル民族のユダ族から生まれること、ベツレヘムという村で生まれること、乙女から生まれること、何一つ罪と過ちがないのに迫害され、十字架につけられること、しかも紀元 31 年に十字架につけられることも正確に預言されていた。銀 30 枚で売り渡されること、3 日目によみがえること等々、300 以上の預言とその成就を列挙することはここではできない。

ちなみに釈迦は予言していた：

「私が死んで500年後、すべての仏たちの源泉となる教えをする預言者が現れるであろう。彼が現れるとき、彼を信じなさい。そうすればあなたがたは数え切れない祝福を受けるであろう！」Gordon, “World Healers” p 31, 32, 229.



儒教の創始者、孔子も紀元前600年に予言していた：

「西の方、支那（中国）に三聖教（仏教、儒教、道教）の回復をもたらす聖人が生まれるであろう」（同 27）と予言した。

Benjamin G. Wilkinson “Truth Triumphant” に引用。（ちなみにこの本は、プロテスタントがやってきたことをどのようにイエズス会が破壊していくかを描いたものである）。



と言われた、クラーク先生から教えを受けた。及川吉四郎著「永遠の安住の地はいずこ」より引用。

彼はこう語っている：

「今や平和の出現を期待すべき所は、地上どこにも見当たらないのである。かくて余の学問の傾向と時勢の成り行きとは、余をして絶望の深淵に陥らしめた。余はここに行き詰まったのである。…」

しかし、再臨を信じた結果どうであっただろうか。

「かくてこそ、世界の問題も、余が内心の問題も、ことごとく説明し得る。愚かなりし哉、久しき間この身を捧げ、自己の小さき力をもって世界の改善を計らんとせしこと、こは余の事業ではなかったのである。キリスト来りてこの事を完成し給うのである。平和は彼の再臨によって始めて実現するのである」。



・南原繁（元東京大学総長）一内村鑑三に師事した、無教会キリスト教の創始者



・矢内原忠雄氏（元東京大学総長）

元東大総長南原繁氏もそうですが、その後を継いで東大総長を二期つとめられた矢内原忠雄氏の再臨信仰を覗いてみましょう。

氏はまだ新進気鋭の学者であったとき、来世について次のように主張しておられます。

「人類の平和に加うるに天地万物の平和、幸いなるは主の再臨の日である。われらはこの再臨を待ち望むのである。これが信者の『望み』である。

今や、人生難行、国家社会また難行である。しかしイエスは彼を信ずる者を救うために、急ぎ来り給います。長き病の床に、或いは行き悩む人生の旅路に、しかしてまた歴史の終末において、イエスは人類を救うべく急遽再臨し給うのです。

ああ、人生の夜が明けて、イエスの救いをわが側に見奉る時はどんなに幸いでしょう。

また、人類の夜が明けて、この地球とこの国土に神の国が成就する時は、いかに幸いでありましょう。」

日本の偉大な再臨信徒たち



内村鑑三（前列中央）と南原繁（前列右）。
1917年、南原の射水郡長就任に際して。

キリスト教界のみならず近代日本の思想家たちは、再臨信徒であった。

・内村鑑三

近代日本思想史に巨大な足跡と影響を残した思想家、また日本近代に出現した旧約的預言者とも言われている。

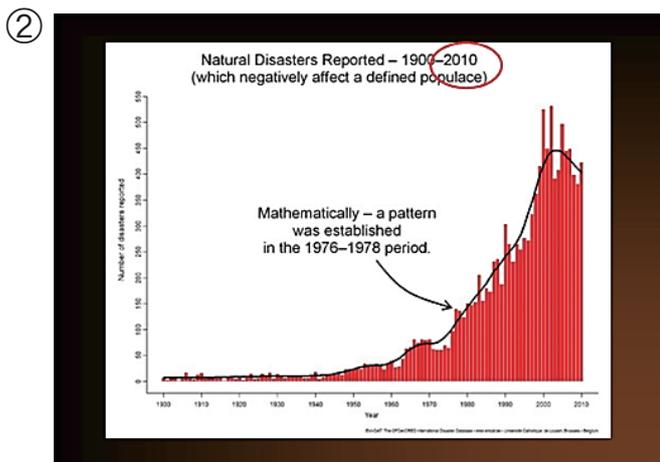
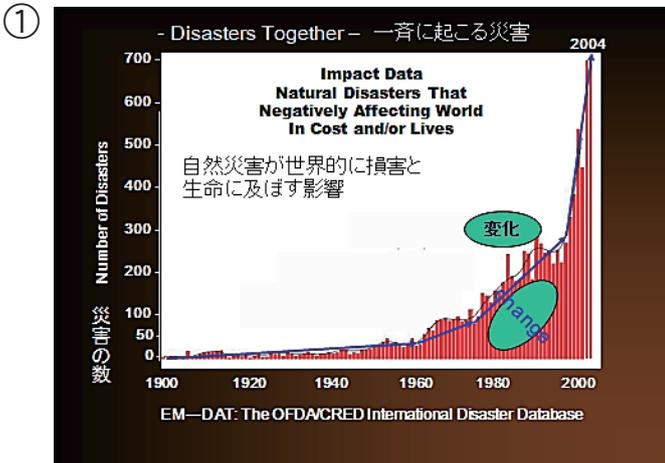
内村鑑三氏は札幌農学校で「少年よ、大志を抱け」

世界はどうなっていくのであろうか

注目すべき世の終わり

=キリスト再臨の前兆！

続発する大災害



図①のグラフは1900年～2004年までの自然災害の「指数カーブ」と言われるもの。図②は1900年から2010年までの指数カーブ。図②のグラフの見方—2005年以降減少している。しかし、これは、かえって危険がまじかに迫っていることを表す。未曾有のあらゆる種類の自然災害がやってくる。津波の場合も潮が引いて跡が怖いのである。

イエス・キリストが、世の終わり＝キリストの再臨の前兆について話されたことがマタイ 24

章、マルコ 13 章、ルカ 21 章に記されている。

「また大地震があり、あちこちに疫病やききんが起り、いろいろ恐ろしいことや天からの物すごい前兆があるであろう。」ルカによる福音書21:11

「人々は世界に起ろうとする事を思い、恐怖と不安で気絶するであろう。もろもろの天体が揺り動かされるからである。」ルカによる福音書21:26

ある聖書では、「方々に」、「次々に」と訳されている。

「しかしこれらは産みの苦しみの初め」というのであるから、これから「想定外の」災害が起こることは、黙示録 16 章にも書いてある。

世界に広がる民衆抗議運動 —貧富の格差暴動—

マスメディアではあまり報道されないが、今日聖書に預言されたことが頻発しているので、預言の目で見ないと世界の動向は読めない。

「先進国」で深刻化する格差と貧困

豊かなはずの「先進国」で広がる格差や富の集中に対する不満が各地で噴き出し、デモや抗議行動が続いている。誰もが貧困に陥る可能性のある社会構造は、いまや全世界的な問題となっている。「1%の富裕層が富を握っている。我々は残りの99%だ」との共通認識は世界を駆けめぐり、10月



2011年9月10日から、米国最大の都市、ニューヨークで

ウォール街を占拠せよ

と叫ぶ
若年失業者中心の
オバマ政権の
雇用対策、
経済対策、
富裕層優遇に
強く抗議する
デモが始まった。

ウォール街の
マネーゲーム企業が
貧富の差を
拡げている
米国経済の
象徴だとして
強く敵視・非難
している。

デモ全米に飛び火

15日には、世界 82 カ国で市民による抗議行動が行なわれた。

「富んでいる人たちよ。よく聞きなさい。あなたがたは、自分の身に降りかかろうとしているわざわいを思って、泣き叫ぶがよい。あなたがたの富は朽ち果て、着物はむしばまれ、金銀はさびている。そして、そのさびの毒は、あなたがたの罪を責め、あなたがたの肉を火のように食いつくすであろう。あなたがたは、終りの時にいるのに、なお宝をたくわえている。見よ、あなたがたが労働者たちに畑の刈入れをさせながら、支払わずにいる賃銀が、叫んでいる。そして、刈入れをした人たちの叫び声が、すでに万軍の主の耳に達している。あなたがたは、地上でおごり暮し、快楽にふけり、『ほふるる日』のために、おのが心を肥やしている。」ヤコブ5:1-5



世界経済危機

世界支配を狙っている者たちは、国々の経済破綻を企てている。

アメリカの豹変



メイフラワー号の清教徒たちは、1620年に、王のいない、信教の自由の国を求めて新大陸アメリカへ逃れてきた。民主主義とプロテスタントの国は政教分離の原則で最も繁栄した帝国に発展してきた。しかし、預言のとおりにより危機的な状況にある。

見よ、この豹変ぶり！黙示録13章の預言の成就！

世界最小の国バチカン（ローマ法王教）の世界支配陰謀 ダニエル 8 章、11:40-45、黙示録 13 章、黙示録 17 章、18 章、2 テサロニケ 2 :3, 4 の預言の成就



ブッシュ大統領の言葉：

「真に偉人の一人、ヨハネ・パウロ 2 世に榮譽を与える最上の方法は、

彼の教えをまじめに受けとめ、彼の言葉を聞き、彼の言葉と教えをこのアメリカにおいて実行に移すことである。」パトリア・ザポア カトリックニュースサービス 2001/3/24

エキュメニズムキリスト教一致運動、宗教大連合

黙示録 1 8 章、黙示録 1 6 章の預言の成就。



二大勢力の対決



ローマ・カトリック (13億) 対イスラム (15億7千5百)
世界最大の宗教-政治権力 ダニエル11:40-45

「終りの時になって、南の王は彼と戦います。北の王は、戦車と騎兵と、多くの船をもって、つむじ風のように彼を攻め、国々にはいって行って、みなぎりあふれ、通り過ぎるでしょう。」

ルカによる福音書 21:28

「これらの事が起りはじめたら、身を起し頭をもたげなさい。あなたがたの救が近づいているのだから」。



THE EMERGING CHURCH

新興教会(エマージング・チャーチ)と 霊性形成(スピリチュアル・フォーメーション)

ハル・メイヤー (Keep the Faith Ministry)

訳 井上千里 (カリフォルニア在住)

今、流行の、新しい宗教運動!

今、アメリカのキリスト諸教会に宗教的疫病が流行している!

これは、キリスト教化した現代心霊術である。形骸化したキリスト教には、最も魅力のあるもののように思われるであろう。「愛は神の第一のご性質として繰り返し説明されてはいるが、善と悪をほとんど区別しない弱々しい感傷主義に墮している」大争闘下 312。心の欠乏を満たすような感じを与えるかもしれない。これが新興教会(エマージング・チャーチ)の特徴である。

宗教歴史の中での最も著しい発展は、おそらくイエズス会が創立されたことでしょう。イグナティウス・デ・ロヨラは、



プロテスタント革命、そしてプロテスタント教会を潰すためにイエズス会を設立しました。イエズス会は、その影響力によって再びこの世を征服し、法王制度の支配下に置くことを特に狙いとしました。彼らはその働きを様々な宗派と共に、そしてその宗派のエキュメニカル運動の働きと共に行い、非常な成功を収めてきました。彼らは歴史上、世界の至る所に伸びている陰謀の網を通して活動してきました。彼らは偽装の

達人たちです。

これらのことは、聖書の預言の生徒であるならば驚くべきことではないはずですが。これから私はイエズス会の歴史や基礎的教理、または彼らの総体的手段を述べるわけではありません。今日私は、ローマ・カトリック制度から直接にきている神の教会に対する新型の脅威をお伝えします。ある方々は今日のメッセージにとっても憤慨なさるでしょう。なぜならその方々が高く評価し、推し進めているものが、どのようなものかを暴くことになるからです。もしあなたがこの話に憤られるならば、どうぞひざまずき、神様が真実の道を示してくださるように尋ねられますことを願っています。

新しい礼拝方式

現在、礼拝の新しい方法が嵐のようにクリスチャン社会に吹いています。それは、もしこれらに従っていくのなら、真理から直ちに離れ、欺瞞に陥ってしまうものです。それに従っている人々は、彼らの救いを失ってしまいます。なぜなら彼らは自己を頼みとし、イエスを知らないからです。多くの人々が聖書を研究しません。そして彼らは、周囲で起こっていることに注意を向けません。もし宗教指導者たちによって支持されている何らかのプログラムが教会に入ってくると、彼らはこれは大丈夫だと思ってしまうのです。サタンでさえ御言葉を用い、また彼自身の聖書解釈を行い、警戒していない人々をイエスとの真の経験から離れさせてしまうのです。テモテ第二4:3～4の使徒パウロの言葉をお聞きください。

「人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、自分勝手な好みにまかせて教師たちを寄せ集め、そして、真理からは耳をそむけて、作り話の方にそ



れていく時が来るであろう」。これは終末時代に関する預言です。神様は、これまでと同様に、終末時代の教会にも、サタンが不義の働きをすることを許しにしなければならないのです。

聖書のコリント第二11:14に「しかし、驚くには及ばない。サタンも光の天使に擬装するのだから」と書かれています。これはどのような意味でしょうか。なぜサタンはこのようなことをするのでしょうか。サタンは完全に偽装して誘惑を持ってくるので、あなたは彼が義の天使であると思い、彼のメッセージは、永遠の命に連なるものだと考えてしまうということです。そしてサタンがこれらのことをするのは、不注意で、表面的で、なまぬるいラオデキヤの人々に偽りを信じさせ、彼らがキリストと永遠の救いを失うようにするためなのです。けれども多くの人々は、サタンが教会の中に実際に欺瞞を持ち込む可能性があるということすら考えることができません。これは彼らにとって理解不可能なことなのです。しかしながら、これこそまさしくサタンが試みることだと聖書は述べています。私たちはまた、サタンが相当に成功するであろうと聖書や預言の霊によって勧告されています。ほとんどのクリスチャンは、これらの書かれていることはすべて過去のことであるか、または将来起こることであろうと考えているようですが、今、実際に起きているのだということを思ってもみません。他の人々は、全く霊的でなく世俗的で、彼らを惑わしている議論を認識することさえできません。このような人々は非常に盲目になっているので、どんな誤りが教会に入ってきて、いざとなったら指導者たちが警告してくれるだろうと思っています。

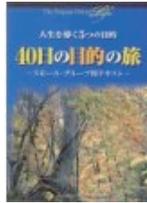
新興教会 (Emerging Church)



エマージング・チャーチのリーダーたち

私は「新興教会 (Emerging Church)」そして「霊性形成 (Spiritual Formation)」と呼ばれるものに対する人々の関心に危機感を抱いています。新興教会運動は、「パーパス・ドリブン・ライフ」(日本語版—人生を導く5つの目的) で有名なリック・

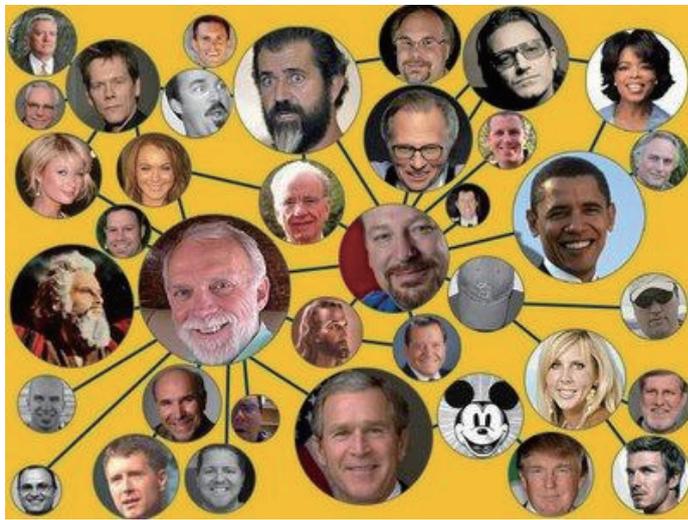
ウォレンやウィロー
クリーク教会のビル・
ハイベルス、またその
他の人々によって運
営されているメガチャー
チに



によって推進されてきました。(Emerging Churchの正確な日本語訳がわかりませんが、新しく出現した、または興っている教会、運動という意味があるので以下、新興教会で統一します。新興教会とはひとつの教派ではなく、様々な教派、教会、グループ内で起こっているムーブメントであり、現代のポストモダン世代〔この世には絶対的なものはない、絶対的な真理、善悪、正誤などなく、すべてが相対的だと考える世代〕に合わせるために、福音派教会は改革する必要があるとの意見で一致しています)。これらの概念は「霊性形成」を通して残りの教会に入り込んでおり、現在活躍している

とても有名な説教者たちによって推し進められているのです。私が霊性形成のことを更にお話しする前に、終末時代の教会について述べている神の預言者エゼキエルの言葉を開いてみましょう。「その中に預言者たちの陰謀がある。その中の君たちは、獲物を裂くほえるししのような者で、彼らは魂を滅ぼし、宝と尊い物とを取り、そのうちに、やもめの

数をふやす。その祭司たちはわが律法を犯し、聖なる物を汚した。彼らは聖なる物と汚れた物とを区別せず、清くない物と清い物との違いを教えず、わが安息日を無視し、こうしてわたしは彼らの間に汚されている。その中にいる君たちは、獲物を裂くおおかみのようで、血を流し、不正の利を得るために人々を滅ぼす。その預言者たちは、水しっくいこれを塗り、偽りの幻を見、彼らに偽りを占い、主が語らないのに『主なる神はこう言われる』と言う」(エゼキエル書 22:25-28 下線部は口語訳には書かれていません)。この聖句はまさしくこの時代に起こっていることを私たちに告げています。これらのムーブメントに携わり促進させている人々は、これ以上聖書に従わなくても、霊的な力や神との一致は、宗教教師や神秘主義から得ることができると我々に信じさせようとしているのです。この神秘主義は現代のものもありますが、ほとんどが3～4世紀の時代にさかのぼるものです。



霊性形成(Spiritual Formation)とは何か

あなたはたぶん「物事は見たとおりとは限らない」という古い言葉を聞いたことがあるでしょう。これはまさに新興教会と霊性形成にあてはまる言葉なのです。耳ざわりの良い多くの用語が使われ、それらはすべて聖書的で正しいものだとなんか信じさせてしまうのです。「瞑想的祈り」、「瞑想」、「弟子」、「弟子化」、などは一例ですが、その他の多くの似たような用語が新興教会や霊性形成に関連して使われています。あるものは霊性形成で教えられているものを、たとえば「キリストにある成長」というような一般的な名称に変えることで、すべてを偽装させることさえしています。これらの一見すばらしい言葉は、十分な知識が無く、警戒していない人々にはとても魅力的なのです。あなたはこれらの言葉を聞いたことがないかもしれませんが、もし新興教会や霊性形成運動があなたの

の教会に入り込んできているならば、あなたはその運動の背後にある概念を教えられていることになるのです。たとえば弟子、瞑想などという言葉は本来の意味があるのですが、これらを全く違った意味を持つ言葉として再定義し、教会内に再導入しているのです。ほとんどの人はこれらの言葉を聞いても危険だとは思いません。

なぜならこれらの多くの言葉は、聖書や預言の霊で用いられており、長い間それらの言葉を耳にしているからです。ですからこれらの新しい概念を促進させようとする時に、彼らは誰でも良く知っているなじみのある古い用語を使い、新しい概念の架け橋として使うのです。ところで瞑想的祈り、または瞑想の何が間違っている可能性があるというのでしょうか？ 祈り、瞑想というのは私たちがすべきことではないですか？ もちろんそうです。けれどもこれらの新興教会がとり入れた実際の用語を学ぶと、これは聖書が教えている祈りや瞑想とは違う種類のものであることがわかるのです。

もしサタンが光の天使としてやってくるなら、彼はあなたを惑わすことができるのです。サタンのプログラムをとても霊的な響きのある言葉にするので、あなたはこれらのサタンのプログラムを、

まさしく神からのものだと考えてしまうのです。そしてこれらは、教会内のとても尊敬されている高い地位にある人々から来るかもしれません。また、有名で保守的なテレビ局、または将来の牧師たちが訓練されている大学からさえも来るかもしれないのです。エゼキエルが偽りの預言者のことを、強欲なおおかみが魂を滅ぼすためにやってくる、と言った言葉を覚えていますか？ キリストはマタイ7:15でも同様のことを言っておられます。「にせ預言者を警戒せよ。彼らは、羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、その内側は強欲なおおかみである。」

霊性形成の指導者たちは、教理はキリストとの体験に比べると重要ではないと言っています。 私たちの日々のキリストとの体験はなくてはならないものですが、彼らが本当に言わんとしている事は、教理は全く重要ではなく、それを気にすることも、語ることも必要ないということなのです。彼らは、すべての宗教が混ざり合うことを望んでおり、それを成し遂げるためローマと共に働いているのです。教理はキリストから来ます。もしあなたが教理を取り除いてしまうなら、「すべてキリストの教えをとおり過ごして、それにとどまらない者は、神を持っていない」(Ⅱヨハネ1:9)ということになるのです。もしあなたがキリストの教えや、キリストが預言者を通して語られた教えを信じなければ、あなたはイエスと本当の関係を持っているということではできません。現在の彼らの考えのように、誰が何を信じようが、すべての人をキリストの体の一部としてそのまま受け入れ、共にキリストを体験していくことをするにつれ、教理はだんだん重要ではなくなってくるのです。今日、以前はプロテスタントとして知られていた福音主義派は、ローマ・カトリックとの一致に戻るように意図されているエキュメニカルムーブメントに深く関わっています。彼らはこれを「新しい霊性」と名づけていますが、ただ単に古いローマ・カトリック神秘主義的心霊術に導かれているだけなのです。

「新しい霊性」の鍵となる思想を持っている指導者の一人がリチャード・フォスターですが、彼は次のように言っています。「私がはじめにこの分野のことを書き始めた70年代の後半、80年代の前半には、カトリック制度に関係しているきわめて専門的な人たち以外には、霊性形成という言葉はほとんど知られていなかった。今日、この言葉を聞いたことが無いという人は珍しい。神学校での霊性形成のコースは、子うさぎが増えるように激増している。莫大な数の人々が、霊的指導者を求め

る多くの人々に応答するために、霊的指導の認定を得ることを望んでいる」。(Richard Foster, Heart to Heart: A Pastoral Letter from Richard J Foster May 2003 <http://www.renovare.info>)。フォスターが、霊性形成とローマ・カトリック教会との間の強いつながりについて言及していることに気づいていただきたいと思います。イエズス会によって生み出された霊性形成のカトリックの概念が、福音主義教会の教えの主流となってきたことは、全く驚くべきことです。

霊的指導 (Spiritual Direction) とは何か

ある人が自分自身のために、霊の生活を導き指導する人を見つけることです。これは人生の案内役である聖書に取って代わってしまうものです。焦点は指導される側の導き手である人間に置かれます。霊的指導者はそのために訓練を受けた人ですが、指導者自身も違う霊的指導者の下にあるので、この階級制度が教会内でおこります(日本語のイエズス会のホームページに、この方法が簡単に説明されています(<http://www.jesuits.or.jp/sp-shido.html>))。神を敬う信心深い人たちに、アドバイスや、勧告を求めることは重要なことです。そして人生における困難や問題が起こった時には、とても助けになるでしょう。けれども、彼らのように霊的指導者に服従するということは全く別問題です。現在神学校の中においても、若い牧師たちが、霊的指導者になるためのコースで学んでいます。また、メガチャーチをはじめ、多くのプロテスタント教会で教えているセルグループやスモールグループ法も、これらの方法を使うように試みています。けれどもこの方法は、教会内に小さなカトリック教会をたくさん作ることになるのです。

体験対教理

新興教会の概念を推進している福音主義派の指導者の一人であるリース・アンダーソン(Leith Anderson)は、宗教と政治の組織

である全米福音同盟の現在の会長ですが、以下のコメントをしています。「古いパラダイム(物の見方、考え方)は、もしあなたが正しい教えを持っているならば、あなたは神を体験するであろうと教えた。新しいパラダイムは、もしあなたが神を体験するならば、あなたは正しい教えを持つであろうと言っている。これは、命題的真理は常に宗教的経験に



先行し、決定づけるものだとみなしている多くの人々をわずらわせることかもしれない・・・この考えは組織神学の産物で貢献するものは多い・・・しかしながら聖書の神学は、経験の様式の後に命題が続くと聖書を理解する」。(Leith Anderson, as quoted in Eddie Gibbs, ChurchNext : Quantum Changes in How We do ministry InterVarsity press, 2000 : 126.)

おわかりいただけるでしょうか。アメリカ最大規模の福音主義組織の最上部からのストレートな発言です。彼は、経験は教理よりももっと大切だと言っているのです。これは人が何を信じてても構わない、あなたは他の人と体験によって一致できるという意味なのです。皆さん、これは間違っています。イエス様は我々に、霊とまこととをもって礼拝しなさいとおっしゃいました。霊と真理は両方が大切なのです。もしこの均衡を失ってしまうと、サタンがあなたに対して有利な立場に立ってしまうのです。新興教会の概念は、教理を教えることを最小限にして感情を強調するものです。これはあなたの聖書に対する理解を表面的なものにしてしまいます。そして、これぞまさしくローマ・カトリック教会がエキュメニカル運動において何十年も強調してきたことなのです。そしてこのゆえに、現在、多くの教会はローマと一致できるのです。これは残りの教会の独特の教理に対する真っ向からの挑戦なのです。

もし教理が重要でなかったら、わざわざ安息日を守る必要があるでしょうか？

もし教理が重要でなかったら、天の聖所の至聖所におけるキリストの奉仕の意味を学ぶ必要などあるでしょうか？

もし教理が重要でなかったら、死後の状態がどうなるかに関しては、あなたの好きなように信じればいいのではないですか？

もし教理が重要でなかったら、なぜ主の仕えをお返しするのでしょうか？

もし教理が重要でなかったら、すべての教会が同意できる事だけを強調するエキュメニカル的な愛と一致がある他教会に加わることができるでしょう。

この新興教会または新興教会運動の概念は、あなたは自分が好きなように何でも信じることができ、それでもあなたはキリストの家族の一員であるというものです。この新興教会思想にも様々な度合いがありますが、これからさらに急進的なものをお話しします。神の教会の中で新興教会運動を推し進めている教師は、これらの概念が真実であることを否定するかもしれません。けれども、もし彼らが否定するなら

ば、彼らは自分たちが教えていることを知らないか、あるいはあなたを欺き、新興教会が教え行っていることに対するあなたの反対は全く誇張したものと思わせようとしているかのどちらかでしょう。そうです、これは神学が関わっていますが、それはとても独断的です。そこには教理は全く重要ではないという不動の教理があるのです。各時代の争闘の中で、神の使命者は次のように言っています。「米国の主要な教会が、その共通の教理において合同し、国家を動かして教会の法令を施行させ、教会の制度を支持させるようになるそのときに、プロテスタント・アメリカは、ローマ法王制の像を造り、その必



然の結果として、反対者たちに法律上の刑罰を加えることになるのである」(p165)。現在のこれらのムーブメントはどこに向かっているのでしょうか。独特の教理が共通の教理によって廃止されてしまう時、エキュメニカル運動は、神のすべての戒めに従い、真理、つまりイエスにある教えを支持する少数の人々を圧迫します。そして迫害が確実な結果となるのです。イエスはヨハネ 16:2 で次のように言っています。「人々はあなたがたを会堂から追い出すであろう。更にあなたがたを殺す者がみな、それによって自分たちは神に仕えているのだと思う時が来るであろう」。次の言葉はあなたが関心をもって読むべき文です。「サタンは、数えきれないほど多くの策略を考え出してわれわれの心を捕え、われわれが最もよく知っていなければならない働きそのものについて、われわれに考えさせまいとしている。大欺瞞者サタンは、贖罪の犠牲と全能の仲保者を明らかにする大真理を憎んでいる。イエスと彼の真理から人々の心をそらすことに、万事がかかっていることを、彼は知っているのである」(各時代の争闘下 p221)。これは天の聖所における至聖所でのキリストのお働きに関して書かれており、あなたの人生において罪への勝利を得させる神の力について述べているものです。新興教会、霊性形成はこれを成

し遂げるために何も助けになるものはありません。これは真理の仮面をかぶった偽りなのです。霊性形成は、キリストのようになるという方法を売りものにしてありますが、その方法は、あなたが指導者や助言者の指導に従うことによってキリストのようになるというのです。けれども皆さん、これは不可能なのです。キリストだけがあなたをキリストに似たものにしてくださるのです。キリストと真理は相伴うものだということを心に留めてください。一つを抜きにしてどちらか一方を持つことはできません。イエス様ご自身が、私は道であり真理であり命であると言われました。もしキリストが真理であるなら、キリストが地上のご生涯で語られたことや、彼の預言者たちを通して語られたすばらしい米国の教えを、私たちは理解し、行う必要があるのです。サタンは彼の数えきれないほどの策略の中に、あなたのために何かの策略を練っていると思いますか？もちろんそうしていません。サタンは、イエスに従っているすべての人々、そのひとりひとりのために企んでおり、もし可能であるならば最も油断無く警戒している人や、聖書の言う選民でさえ欺く可能性があるのです。ところで選民と呼ばれる人たちは、必ずしも大学の称号を持っている人たちではありません。実際には大学の称号というものは、しばしば人々を、神の真理や教義に対して懐疑的にしてしまいます。もちろんいくつかの例外はありますが・・・。

新興教会運動は、福音派教会を急襲しており、福音派教会はその運動に呑み込まれています。聖書に根を下ろしていない人々には、その教えはとても魅力的です。私たちが靈感を受けた神の言葉よりも人間の考えや教えを取り入れてしまう時、そう長くはかからずに誤謬に陥ってしまうのです。イエス様はイザヤ書の言葉を引用して次のように言われました。「この民は、口さきではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている」それから続けて言われました。「人

間のいましめを教として教え、無意味にわたしを拝んでいる」(マタイ 15 : 8-9)。

新しい教会

新興教会のリーダーたちは、21世紀のためにキリスト教を再び構築する必要があると言っています。新興教会運動のキーパーソンであるブライアン・マクラーレン (Brian McLaren) は次のように言っています。「いいですか、もし我々が新しい世界を持っているのなら、我々には新しい教会が必要でしょう。我々には新しい宗教の思想は必要ではなく、我々の神学の新しい枠組みが必要なのです。新しい精神ではなく、新しい霊性です。新しいキリストではなく、新しいクリスチャンです。新しい宗派ではなく、すべての宗派の中にある新しい種類の教会です」(Brian McLaren, *The Church on the Other Side*, Zondervan, 2009)。



新しい霊性運動において福音主義者たちの中に駆け巡っているもうひとつの共通のテーマが、古代礼拝または古代祈禱の再導入です。ル

ター派の刊行誌「古代の新しいもの」で、ジュリー・セービング (Julie Seving) は言っています。「福音主義派は正統派からルター派、カトリックまでとすべての教会の礼拝形式からの伝統を用いている」。言葉を代えて言うならば、現在、福音主義派はもうプロテスタントの強い信仰を持っておらず、中世におけるカトリックの儀式偏重に戻ってしまっているということなのです。これは法王制がすべての教会を支配する権利を取り戻すための計画に全く好都合なのです。新興教会運動は、一步一步教会をローマに戻すための導き手となっています。彼らはまた、今世紀初頭の神秘主義者や修道僧たちにおもきを置いています。福音主義派間での新興教会運動や霊性形成の思想家、そして計画の立案者であるロバート・ウェバー (Robert Webber) は、彼の著書「古代—未来信仰」で公然と古代の信仰を認め、

それを実施するよう教会に呼びかけています。その古代の信仰というのは、使徒時代の初代教会の信仰ではなく、2～4世紀において行われていたローマ・カトリックの神秘主義のことを言っているのです。彼は次のように言っています。「霊の糧の第一のよりどころは聖書である。しかし、我々は今、聖書に対する愛着によって神秘主義や、それらの活動をあえて避けるようなことがないように・・・ますます人々は、神秘主義の偉大な働きに立ち返っている。リチャード・フォスターは、アウグスティヌスの告解を回復させるよう我々に呼びかけている」(Robert Webber, *Ancient-Future Faith*, Baker Books, 1999, 135)。ロバート・ウェバーは、多くのローマ・カトリック神秘主義者たちの著書を推薦しており、これらの神秘主義者の業を学ぶことなしには、あなたの霊の生活は十分ではない、そしてあなたはただ聖書だけでなく、彼らを通して神を理解することができる、また、福音主義派たちは、ローマ教皇の教えと権威の下で一致を求めなければならぬと言っています。

ダン・キンベル (Dan Kimball) は、「新興教会」という本の中で言っています。「新興教会の文化の中で、暗闇は霊性を象徴している。これはカトリック教会や、正教会をはじめとし、仏教の寺院でも見られる。暗闇は何か重大なことが起こっていると我々に伝えている」。想像してみてください！暗闇が霊性を象徴している？私はこれを暗黒の霊（サタン）と呼びます！「未熟な古代の礼拝形式に戻ることが、現代新しく、最先端だとも言われていることは何と皮肉なことだろう。私はただ、教会が存在してきたのと同じように、これまであった古い形式に戻ろうとしているだけなのだ」(Dan Kimball, *The Emergent Church*, Zondervan, 2003)。彼の言う古代の礼拝形式とは、もちろん神秘主義のことです。サドルバック教会のリック・ウォレンもこの本の前書き、そして全体にコメントをすることで、彼の思想に大きな支持を表明しています。

「ポストモダン主義者たちは、すべての感覚を使ってキリストと出会うことを好んでいる」。ルター派刊行誌の中で、ジュリー・セーピングは言っています。「これが伝統的な礼拝形式と瞑想

的礼拝をすることの魅力の一部だ。それは香やろうそく、手で十字の形を切る、パンとぶどう酒の匂い、イコン（聖像）に触れることや、油を注がれることである」。すべての新興教会支持者たちが、これらのローマ・カトリック礼拝での儀式を支持し、行っているわけではありませんが、その方向に傾いているということが気づかれないままであってはなりません。これらのローマ・カトリック制度で使うろうそく、香、暗闇、復唱、そしてその他の視覚、聴覚に訴えるものが、礼拝を非常に経験的なものにしていきます。あなたはこれらの儀式はただの形式ばったもので、何の魅力もないとお考えでしょう。けれどもこれらの感覚に訴える儀式や飾り物などが、罪の呵責から解放され、神との体験を望んでいる人々にとっては、神につながる方法だと考えているのです。これらの儀式や感覚的なものが、聖書とキリストにある信仰に置き換えられてしまっています。新興教会は現在、古代儀式にロックミュージックやその他の現代的な出し物を合わせることで、空虚な礼拝に飽きた人々に神との一致の体験を提供しているのです。

福音主義者たちは、徐々にローマ・カトリック信仰を容認させられています。しかしながら、リック・ウォレンをはじめとする他の新興教会の指導者たちは、この接近に危険を認めていません。新興教会運動の背後にある本当の計画は、あなたをローマ・カトリックの著者、神秘主義、修道士がおこなっている瞑想的祈りや儀式、霊の指導者への服従そしてローマ・カトリックの信仰へと直接に導くことです。指導者の中には、このムーブメントに何が関わっているのか全く気づいていない人たちがほとんどでありましょう。しかしながら、少しの努力と信頼できる情報源から調べることによって、新興教会運動、霊性形成がどのようなものなのかということがすぐに理解されるはずです。

イグナティウス・ロヨラの修行方法

霊性形成は、イエズス会の創設者であるイグナティウス・ロヨラによって、会の修業方法として考え出されたものです。これは（見習い僧として知られている）若いイエズス会員の心を、

目上の人に屈服させるために訓練する複雑な方法でした。上司による霊的指導によって、若い修道士を目上の人々の命令に従順に服従するようにさせました。これらのすべてのことが、霊性形成で行われることの中に含まれているのです。福音主義版ともいえる霊的指導では、霊の指導者と指導される側との間に同様の関係をつくります。霊の指導者の下にある人は、指導者が彼らにするように言われることすべてに従うようになるのです。影響力の強い霊性形成の促進者であるリチャード・フォスターは次のように言っています。「孤独、沈黙、瞑想、断食のようなそれほど一般的に行われていない（宗教の）活動、そして他の人々の意志に服従することは同様に適切なことであり、実際のところ霊性形成のためには更なる土台となるものである」（Richard Foster, Heart to Heart : A Pastoral Letter from Richard Foster, May 2003）。霊性形成の訓練において、神に近づく最善の方法は、他の人々を通してだと教えられます。つまり我々は見習う他の人々がいるときだけ、霊的に成長することができるということです。見習う人がキリストに入れ替えられており、またこれもローマ・カトリックの原則です。

最近になるまで霊性形成は、主にローマ・カトリック、そしてイエズス会の一部で行われていました。けれども過去数十年の間に、霊性形成の原理は福音主義教会の主流に入り、現在それらは神の教会に津波のような勢いで入り込んできているのです。今日、あなたが霊性形成を奨励し、それについて語っている人々の話を聞くときに、彼らはあなたを引きつけるようなとても魅力的に聞こえる言葉を使います。彼らはキリストにある成長について語ります。また彼らはデポーション（個人的な礼拝）、聖書研究、祈り、瞑想ということについて語るかもしれません。これらはクリスチャンの成長には重要なものだとしてすべての人によって認められています。我々すべての人は、聖書を研究し、祈り、そしてキリストを瞑想することが必要です。しかしながら霊性形成の促進者は、これらを違った方向で語っているのです。

瞑想的祈り (Contemplative Prayer)

霊性形成において、とても重要な要素になっているもののひとつに「瞑想的霊性 (Contemplative Spirituality)」があります。他にもこれに関連しているものに「瞑想的祈り (Contemplative Prayer)」、「センタリングの祈り (Centering Prayer)」（または向心祈禱、集中的祈りなどとも呼ばれている）などといったものがありますが、これらは本質的に同じものです。これらはニューエイジで行われていること、そして数百年にわたってローマ・カトリックの修道士たちによって教えられてきたことが、混じりあっているもの以外の何ものでもありません。「センタリングの祈り (Centering Prayer)とは障害となっているものを減じるための訓練である。・・・神聖なひとつの言葉を（反復するために）選びなさい。20分から30分は、ほとんどの人が内面の静寂を作り出すために最小限必要とする時間である」（Thomas Keating, Open Mind, Open MyHeart, Continuum International Publishing Group, 2006）。これは他の言葉で言うと、自分が神と一致しているという感じになるまで思いを集中させるために、宗教的、又は聖書の言葉（何の言葉でもかまわない）を単に繰り返すのです。イエス様は、祈りは単純率直で、神様を我々の父とし、友とみなして祈るように教えられました。そして特に、無駄で無意味な繰り返しをしないようにと言われました。「また、祈る場合、異邦人のように無駄な繰り返しをするな、彼らは言葉かずが多ければ聞き入れられるものと思っている」（マタイ6:7 下線部英文訳）。また彼の言う内面の静寂は、思想そして散漫な心を空にする神秘主義的ニューエイジの概念で、言葉を繰り返す（マントラ）ことによる自己催眠を通してそこに達するのです。催眠といっても意識がなくなるわけではなく、脳内を霊の世界と交流を持つことができるアルファ波で満たすことが目的です。それはサタンの合理化した考えに前頭葉を迂回させ、潜在意識下に直接行くように許可をしていることなのです。皆さん、一体何が起きているのか理解していますか？真摯なクリスチャンたちは、サタンの世界に直接連なり、自分自身をサタンに明け渡してしまっているのです！ところでこの神秘主義的体験は、私たちのとても身近なところで行われています。たとえばヨガをはじめとする健康増進やリクラ

イゼーションのための方法、自己開発のためのビジュアリゼーション（時にイメージ療法などと呼ばれる）、アフメーション（自己暗示の方法）などはほんの一例です。これらは表面上全く無害に見えますが、危険なものです。

バチカンもまた、瞑想的祈りを推奨しています。下記はローマ・カトリック書からの引用です。「たとえば第二バチカン会議では、聖職者であっても一般の人であっても、自由の新しい感覚そして霊的再生の望みを与えた。センタリングの祈り（Centering Prayer）、そして瞑想は、多くのクリスチャンにとって、より深い祈りの生活を取り入れることの助けとなった」（James Arraj, From St. John of the Cross to Us, James Arraj, 1999）。このバチカンによって支持され、また多くの宗派、特に新興教会運動に関わっている人々によって行われている瞑想的祈りは、東洋の神秘主義と、ローマカトリシズムが一体化するために考案されました。リック・ウォレンも彼の著書「人生を導く5つの目的」の中で、この祈りの方法を、それとはわからないように推進しています。

理解していただきたい重要なことは、神秘主義的ニューエイジの瞑想と真のクリスチャンの瞑想とは全く異なっているということです。真の瞑想とは、神を信じる者の心が、真理で満たされることを求める活動的な思考の過程です。私たちが空にするのは自己であって、思考を停止して心を空にすることではありません。それは神の言葉を熟考し、神が聖霊によって「あらゆる真理に導いて」（ヨハネ16：13）くださると約束された神に祈ることです。クリスチャンの瞑想の結果は、必ずみ言葉の教えと一致するはずです。

神の教会内における実例

悲劇的なことに、この世に警告を発する代わりに、セブンスデー・アドベンチスト教会内にも心霊術が持ち込まれています。一部の我々の学校の教師、チャプレン、指導者たちは、瞑想的心霊術を学ぶ学校で訓練を受けていることを、今や秘密にされることはなくなりました。また我々の教会が開催するある全国集会においても、

牧師たちの学びのために、神秘主義者たちを講師として招いていることも、もはや秘密ではありません。オハイオ教区が主催しているこの集会 (<http://sdapartnersininnovation.org/>) は毎年開かれ、アンドリュース大学などが支援しています。

あるとても有名なテレビ伝道番組は、クラスやセミナーを通して霊性形成を教えています（預言の声 <http://www.vop.com/article.php?id=171>）。もともとのそのクラスの名称は「霊性形成」でしたが、多くの人々がその名に否定的な反応を示し、そのクラスがイグナティウス・デ・ロヨラやイエズス会の教えと関連しているのかとの疑問が起こされた時に名称が変更されました。新しい名は「ジーザス101」となり、副題も、イエスにある成長や弟子の訓練などと、かなりごまかされた総括的な名称になりました。けれども、このコースの背後にある本当の意図は、霊性形成なのです。偶然にもこのテレビ伝道局が提供しているオンラインコースの記述が、福音主義エキュメニカル機関であるウェスリアンノースイースタン神学校が提供している霊性形成のプログラムと（ある程度修正はしているものの）ほとんど同じなのです。それは今、まるでキリストの生涯を学ぶコースであるかのように見せかけ、これらが聖書に忠実なプログラムであると参加者を安心させるために多くの聖書の教材を使います。この変装した霊性形成の学びに気づかない多くの魂は、このテレビ局にとっても忠実に献金をしています。なぜなら彼らは、今は亡き創設者と彼らのメッセージに感謝しているからなのです。

ラシエラ大学は、校内祈祷週の講師として、また礼拝のスピーカーとして、トニー・カンポロ (Tony Campolo) を何度か招いています (Adventist Today March, April 1996 vol5, no2) (<http://www.lasiera.edu/index.php?id=1636>)。彼はセンタリングの祈り、マントラ、カトリック神秘主義、特にイグナティウス・デ・ロヨラを推奨しており、プロテスタントの宗教改革は、カトリックの真理をあまりにも置き去りにしてしまったと言うクエーカー神秘主義者です。またパシフィックユニオン大学も、祈祷週のスピーカーとして元カトリック司祭であるブレナン・マニング (Brennan Manning) を招いています。彼は、処女マリヤ、キリストがはり

ついたままの十字架、ロザリオ、法王をととても重要視しており、どのような形でも神の律法、基準に服従することに強い反対を述べる著名な著述家です。「祈るときはただ神について考えるのをやめなさい、そうすればあなたは神の偉大な静寂の中に入ることができる。ただひとつの神聖な言葉をゆっくり、たびたび繰り返しなさい」 (Brennan Manning、



The Signature of Jesus, Multnomah Books, p145) と教える神秘主義促進者でもあります (Adventist Today March, April 1996 vol5, no2 and PUC Campus Chronicle, Feb/1996)。その他のアドベンチスト内の大学においても、メガチャーチの神秘主義を奨励する牧師を招き続けているため、現在それを阻止するための署名運動に発展しています (<http://keepnotsilent.com/>)。これらは、何の疑いもない柔軟な心の若い青年たちに、大きな影響を与えています。

ミシガンにあるアンドリュース大学では、神学部の博士課程で霊性形成を教えています。博士号を取得するためのある一つの集中講座は、この大学の神学部から提供されています。 (http://www.andrews.edu/sem/dmin/concentrations/discipling/discipleship_brochu.pdf)

そのクラスの教師の一人は「飢え、あなたの魂のあこがれの発見 (Jon L. Dybdahl, Review&Herald 2008)」という題名の本を出版し、教科書として使用しているようですが、アドベンチストブックセンターでも販売されています。彼はその本の中の推薦図書として、多くのローマ・カトリックの著者、東洋の神秘主義者、福音派新興教会著者たちの書籍を挙げています。それには有名なローマ・カトリック修道士であり司祭であるヘンリ・ナウエン (Henri Nouwen)、トーマス・マートン (Thomas Marton)、トーマス・キーティング (Thomas Keating) その他多くが含まれています。彼はまた、聖公会司祭のティルデン・エドワード (Tilden Edwards)、神秘主義者

であり、新興教会と霊性形成の指導者ともいえるロバート・ウエバー (Robert Webber)、トーマス・ケリー (Thomas R. Kelly)、クエーカー神秘主義者のトニー・カンポロ (Tony Campolo)、また

彼は、カトリックの神秘主義者、たとえばイグナチオ・ロヨラやリチャード・フォスターの著書を読むことで、新しく生まれ変わることができると言っています。だれよりも多くの光を持っているであろうクリスチャン

の教師が、なぜ暗黒の会堂から出ているものを生徒たちに推薦するのか理解に苦しみます。また、黙示録 14 章の (バビロンから離れ去れという使命も含まれている) 三天使の使命を伝えることになっている牧師のための大学の教育課程の一部に、なぜ霊のバビロンからきているものをとり入れなければならないのか、そして神学部の部長がなぜこのコースを続けることを許しているのか全く理解できません。

神の教会内に霊性形成運動を入りこませるための架け橋となって大きな役割を果たしているのが、メガチャーチのリーダーたちです。有名なメガチャーチのひとつであるウィロークリーク・コミュニティーチャーチは、2007年のウィロークリークニュースに「霊性形成の再発見」と題する記事を載せ、修道院グループや、新興教会に肯定的意見を書いて、霊性形成は、ウィロークリークにおけるミニストリーだと言っています。ウィロークリーク教会における霊性形成の指導者のミンディー・カリガイア (Mindy Caliguire) は、魂のケア (www.soulcare.com) の創設者兼会長であり、専門家として多くの教会や個人に助言、指導をしています。また彼女は霊性形成同盟の地域理事として働いており、多くの教会、教育者、様々なキリスト教関係の組織とネットワークを持ち、霊性形成を取り入れたい人々に、助言、勧告を行っています。また、ウィロークリーク教会のホームページでは、ミンディー・カリガイアの霊性形成セミナーを公開しています (<http://media.willowcreek.org/classes/>)

これらの霊性形成の教えの大きな脅威は、キリストの信者になるためには、あなたはキリストをあなたの救い主として受け入れたり、新生の経験をする必要もなく、だれでも彼らが教えている霊の訓練を実行すればキリストのようになるということです。信者にとってキリストは救い主というよりも、ただ模範とすべき人になっています。多くの自称新生したクリスチャンは、内住のキリストがないので、必死にクリスチャン経験を探し求めているのです。そして霊性形成が、平和と救いの確信を提供してくれる天からの贈り物のように見えてしまうのです。

サドルバック教会のリック・ウォレンは、彼の著書「パーパス・ドリブン・チャーチ」(人生を導く5つの目的)の中で、神は教会の目を覚まさせるために、リチャード・フォスター(Richard Foster)とダラス・ウィラード(Dallas Willard)の霊性形成運動をおこされたと書いています。リック・ウォレンは、福音派が、霊性形成運動に参加すれば、教会が成熟に至ると信じており、瞑想的祈りや霊性形成をキリスト教の主流に取り入れるために多大な貢献をしてきました。新興教会国際牧師会議ではそのための講演を行い、また多くの神秘主義者たちを彼の教会に講師として招いています。また彼は、世界的な「ピース・プラン(PEACE PLAN)」を作り、同性愛者、イスラム教徒、ローマ・カトリック教徒など、彼の計画に協力する人たちとは誰であっても手を結ぼうとしています。2005年、国連での異教徒間祈祷朝食会(United Nations Interfaith Prayer Breakfast)において、彼は「ピース・プラン」について聴衆に語っています。「昨夜、私はここニューヨークでの外交問題評議会(Council on Foreign Relations)に講師として招かれ、私たちの世界的なピース・プランについて話すよう依頼されました。過去25年間、私は世界中で海外の牧師、宣教師、祭司たちを訓練し、162カ国で約40万人の聖職者、牧師たちを育ててきました。たぶんあなたの国も訪れていることでしょう」。さらに続けて「今朝はひとつの宗教について語ろうとは思いません。いいでしょうか?こ

これはカトリック教徒やプロテスタント、仏教徒、バプテスト教徒、イスラム教徒、モルモン教徒、ユダヤ教徒などの人たち、またおそらく無宗教の人たちがいます。私はそれぞれの宗教背景には興味がありません。なぜなら神は私たちにひとつの宗教を持たせるために宇宙を作ったのではないからです」(United Nations, Interfaith Prayer Breakfast, September 2005, transcribed from the audio of Rick Warren's message available at Lighthouse Trails Research Project, at <http://www.lighthouse trailsresearch.com/newmissiology.htm>)。

また彼は別の場所でも、宗教間の一致を強調しています。「アメリカ人の25%は基本的にカトリック教徒で、またアメリカ人の28%から29%は福音派なので、それらを合わせると過半数と呼べる。・・・福音派プロテスタントとカトリック教徒の間で発達しつつあるこの協調を皆に見てほしい(Myths of the Modern Mega-Church, May 23,2005)。

このように新興教会運動は、誤った教義であっても偽りの宗派であっても、体験によって一致できると教えていますが、彼らが敵視しているクリスチャンたちがいます。トニー・カンポロは、「終末時代の諸事件や再臨を強調する人々は、非常に有害な結果をもたらしている」(Tony Campolo, Speaking my mind p209, 211)と言っており、リック・ウォレンも「もしイエス様に早く戻ってきてほしいのなら、(聖書の)預言を理解(または解説)しようとするよりも、あなたの使命を成し遂げることに焦点を当てなさい」(Purpose Driven Life p286 日本語版の「人生を導く5つの目的」ではここの部分を、「将来のことについてあれこれ詮索するな」と変えられています)と言っています。リック・ウォレンは、これらの根本主義クリスチャンはイスラム根本主義者と同じように21世紀最大の敵のひとつであると言っており (Paul Nussbaum, The Purpose Driven Pastor, Philadelphia Enquirer, Jan. 8. 2006)、彼らは恐怖によって動かされ、律法主義的でキリスト教の狭い見方だと言っています (Myth of the Modern Mega Church,5/23/2005)。彼の言う根本主義者とは、聖書を文字通り信じるクリスチャンのことなのです。次は、リック・ウォレンへのインタビューの一部です。『これらのことをひとつにまとめると、教理は重要になら

ない、重要ではないと言いたいのですか?』
『いいえ違います。これはアウグスチヌスの言っていたことだと思います。「本質的なものには一致を、本質的でないものには自由を、そしてすべてのものに慈善を」。そしてそれが礼拝、交わり、弟子の訓練、奉仕、伝道の五つの聖書的目的だと思うのです。すべての人がこれに同意します』(Rick Warren "What a purpose driven church is not" 5/25/2005)。彼にとって本質的なものは、礼拝、交わり、弟子の訓練、奉仕、伝道であり、教理は本質的でないということです。

古代イスラエルの人々は、今日の我々の教会と同じように、彼らを取り囲んでいた異教の信仰、習慣を真似し習いたいという誘惑にいつも直面していました。そのようなイスラエルの人々に、神様は声高く次のように言われましたが、これは同時に我々に対する訴えでもあります。「あなたはみずから慎み・・・彼らにならって、わなにかかってはならない。また彼らの神々を尋ね求めて、『これらの国々の民はどのようにその神に仕えたのか、わたしもそのようにしよう』と言ってはならない。あなたの神、主に対しては、そのようにしてはならない・・・あなたがたはわたしが命じるこのすべての事を守って行わなければならない。これに付け加えてはならない。また減らしてはならない」(申命記 12 : 30-32)。

三者の結合

皆さん、霊性形成そして新興教会運動は、我々のための神のご計画ではありません。これらはローマ・カトリック教会、古代神秘主義、そしてニューエイジと深いつながりを持っているのです。聖書は三者の結合が作られると言っていますが、今まさしくこれが起こっているのです。これらの三者とは背教したプロテスタント教会、心霊術、



そしてローマ・カトリック教会です。以下は皆さんがよくご存知の言葉です。「新教教会が手を伸ばし、深淵の向こうにあるローマ教会の権

力の手をとり、奈落の向こうにある心霊術と握手しようと手をのばす時、また、この三者の結合による勢力下に米国が新教共和国体制としての憲法の原則をことごとく放棄し、ローマ法王の偽りと惑わしの普及に道を備えるその時こそ、我々は、サタンの驚くべき働きがやってきたこと、また、世の終わりの近いことを知るのである」(5T 451)。この三者の結合は、新興教会運動、エキュメニカル運動、霊性形成運動を通して、我々の目の前で作られています。そしてこの預言された結合に対して、神のメッセージは何と正確な事かと驚きます。以前のプロテスタント教会は、現在、教皇制の欺瞞をすっかり取り入れ、霊性形成、新興教会を通して、心霊術とカトリシズムとの強い絆を作ってしまった。そして彼らは共に、この世を神の律法をめぐる最終的な戦いに備えるために協力して働いているのです。最後の世代である神の民のだけれども、このムーブメントに関わるということは決してあってはならないことです。牧師たち、指導者たち、そして教団は、確実にこれらからきっぱりと遠ざかっていなければなりません。またこれらのムーブメントが、我々の使命と調和しているかのように勧めてはなりません。それは欺くことです。私はだれかの心を傷つけようとして、動機を裁くつもりは全くありません。けれども神の言葉の権威に基づくと、これらが誤りであり、汚れた泉から来ていることがわかります。

ゴスペルヘラルド (3/1/1901) の言葉に目を向けてください。「霊的な助けを人間に依存してはいけません。肉をあなたの頼みとする誘惑に抵抗しなさい。子供が地上の父親を見るように神を見なさい。彼があなたを愛し、彼が約束されたようにあなたを助けてくださることを信じなさい。もしあなたが信じるならば、あなたは確信、信頼、よりどころ、そしてあふれるばかりの祝福を得るでしょう。なぜならキリストがあなたの信仰の土台であることにあなたは気づくからです」。

皆さん、キリストと聖書以外による霊の指導は必要ありません。あなたの神の言葉に対する生きた信仰以外には霊性形成なども必要ありま

せん。言葉の繰り返しや愚かな儀式ではなく、み言葉を開くときに、聖霊が瞑想と祈りの生活に導いてくださるはず。我々は靈感を受けた神の言葉を読む代わりに、バビロンの汚れた泉のものをわざわざ読む必要はありません。次の勧告は、牧師への証からの引用です。「多くの者が、サタンの忌まわしいたいまつで点火された偽りの預言の光をその手に持って、我々の説教壇に立つであろう。もし疑いと不信が大切にされるならば、忠実な牧師たちは非常に多くを知っていると考える人々から取り除かれるであろう。『もしお前も』とイエスは言われた。『この日に平和をもたらす道を知ってさえいたら！しかし、それは今おまえの目に隠されている』(p409-410)。

「教会と法王教の距離を縮めるのは、背教する

教会である」(Signs of the Times, 2/19/1894)。

愛する皆さん、我々はローマに戻ってはいけません。我々はローマとの距離を縮めるのではなく、できる限り広げていなければなりません。人間的で無益なものすべてに背を向け、比類のないキリストの麗しさを眺められますように願っています。

「シオンの城壁の上に立っているべき見張りはどこにいるのか。見張りは眠っているのか。この土台は働き人である主によって建てられ、いかなる嵐にも耐えるものだ。彼らはこの男(教会内で神の言葉の真理の土台を崩そうとしている人)が神の民の歴史を否定する教理を述べるのを許すのか。決断して行動する時が来ている」(セレクトドメッセージ I p275)。

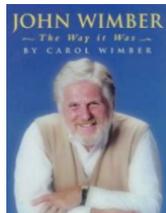
TOPICS

さまざまな教会成長論 (Church growth movement) の波が入れ代わり立ち代わり日本のキリスト教界に押し寄せてきている!

日本の弱小教会を翻弄させる非聖書的人間主導型世俗化教会の主導者たち



Peter Wagner
(ピーター・ワグナー)



John Wimber
(ジョン・ウィンパー)

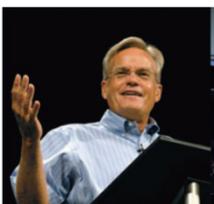


Rick Warren
(リック・ウォレン)



米国最大の教会、ジョエル・オースティンのレイクウッド教会

レイクウッド教会5万人、
チョ・ヨンギの教会83万人



Bill Hybels
(ビル・ハイベルズ)



Robert Schuller
(ロバート・シュラー)



Joel Osteen



チョー・ヨンギ
世界最大の教会の牧師

経営学、心理学から伝道拡大というが…?

「この世のやり方によって教会を運営する牧師は当然この世の経営者のようになる。つまり教会員の上に君臨し、自分の王国の拡大と維持のために奉仕させ、献金させる。しかし、注意してほしいのは、イスラエルにおいてそれを最初に求めたのは王自身ではなく民の方であった。皮肉なことに民の要求が強権的な指導者を作り上げてしまったのだ。カルト化した教会の問題について一概に指導者だけを責めるわけにはいかない。カリスマ的独裁的指導者を生み出す温床は教会員たちの心の中にある。」

「政治は数であり、数は力、力は金だ」とは田中角栄の言葉である。教会が大きくなると「数の論理」で牧師は力を内外に誇示するようになり、次第に金に執着するようになる。そして女性問題もつきものと指摘されている。(インターネットより)



経済危機

デイビッド・カン

今回のテーマは、「経済が日曜休業令の舞台設定をする」というものです。日曜休業令というのは、経済に関する迫害ですよ。もし私たちが神に忠誠を尽くし、神の戒めを守ることを選ぶならば、売り買いをすることが禁じられてしまうわけです。そこで私たちは、詩篇 121 篇 1 節と 2 節の祈りを、私たちの祈りとすべきであります。「わたしは山に向かって目をあげる。わが助けは、どこから来るであろうか。わが助けは、天と地を造られた主から来る」。私たちは、神のご臨在、神の助けというものを身近なものとしておこなうてはいけません。食べ物を含む経済的支援だけでなく、世的な支援がすべて絶たれる時に、私たちは神様だけに信頼を置くということを学んでいなくてははいけません。私たちがこれまで信頼を置いてきたものが、すべて当てにならなくなる時がやってきます。

ヤコブの手紙 5 章というのは、特に最終時代に生きている人たちのための章であります。1 節を見ると、「富んでいる人たちよ、よく聞きなさい。あなたがたは、自分の身に降りかかろうとしている災いを思って、泣き叫ぶがよい」とあります。3 節を見ると、「金銀はさびている」とあります。どういう意味でしょうか？金銀がさびるということがあるのでしょうか？金銀は通常さびないので、貴金属として重宝されているわけですね。これは金銀の価値が下がるということです。なぜでしょうか？金銀を食べることはできません、飲むこともできません。最終時代に食物と水が、本当に得にくくなってしまいます。この経済が盛況な時代に、多くの人たちは金を買って求めます。そういう人たちは、ヤコブ書 5 章 3 節を読むべきであります。

「そのさびの毒は、あなたがたの罪を責め、あなたがたの肉を火のように食い尽くすであろう」ということの意味を、まだ悟っていないわけですから。自分たちが生涯をかけて蓄えてきた富を失うがために、多くの人びとが激しい苦しみに遭います。「あなたがたは、終わりの時にいるのに、なお宝をたくわえている」。まさしく 3 節にあるように、終わりの時について述べられている章なのです。6 節には、「そして、義人を罪に定め、これを殺した。しかも彼は、あなたがたに抵抗しない」とあります。多くの金持ちたちは、自分たちの富を蓄えるにあたって貧しい人たちを利用し、義人たちを罪に定めて殺す、というようなことをしてきました。そして、最終時代に必要な忍耐については、7 節に書かれています。前の雨と後の雨が出てきますね。そして 8 節にはキリストの再臨について述べられています。ですからヤコブ書 5 章は、最終時代に住んでいる私たちのために書かれているものなのです。

初めに、米国の経済状態についてお話ししたいと思います。なぜそうするかと言いますと、終末における聖書の預言の中心が、アメリカ合衆国だからであります。かつて、聖書の預言の中心はエルサレムでした。現代においては、アメリカ合衆国が中心なのです。ですから、米国の経済状態を理解することが肝要になっているわけです。まずアメリカ合衆国において、獣の刻印が強制されます。使徒ヨハネは、黙示録の幻の中で、アメリカ合衆国の運命について見せられます。小羊のような角を持つ獣、小羊のような獣とは、アメリカ合衆国のことですが、その獣が、先の獣、つまりローマ法王教の持つすべての権力を働かせたと書かれ

ています。そしてアメリカが、ローマ法王教を拜むように全世界に働きかけるわけです。ですから私たちは、この国に注意を払う必要があるわけです。アメリカ合衆国は、小羊のような角を持つ獣として描写されていますね。

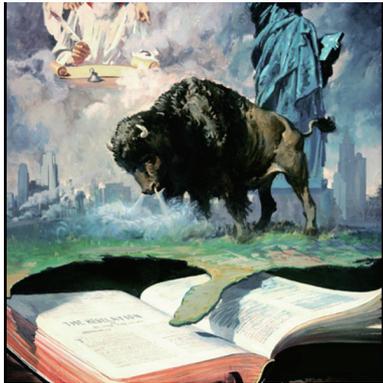


アメリカにしかない動物というのがいます。それはアメリカバッファローという動物です。興味深いことに、アメリカバッファローの赤ちゃんを見ると、子羊にそっくりなのです。もしかしたら、ヨハネが幻に見た小羊のような獣というのは、アメリカバッ



ファローの赤ちゃんの姿だったのでしょか。もちろん使徒ヨハネは、そのような動物を見たことがありませんでした。小羊のような獣なんですけれども、実は違う

わけです。ですから彼は、小羊のような獣と言ったのではないのでしょうか。歴史的にみると、アメリカ合衆国は1776年に起こりました。法王教が致命的な傷を受



ける直前の時代でした。そしてその時に、黙示録17章の、第6の王が起こったわけです。聖書の中にはっきりと、アメリカ合衆国が預言されているということが分かります。これが、後に龍のように物を言う、第6の獣であります。この聖書の預言に出てくる最後の獣が、全世界に獣の像を拜ませようとするわけです。ですからアメリカ合衆国、特にその国の経済について、皆さんに注意を払っていただきたいのです。

2008年にサブプライム・ローン危機というのが起こりましたが、それはどういったものでしたか？2003年から2007年頃にかけて、米国は外国との貿易において、多大な赤字を抱えていました。な

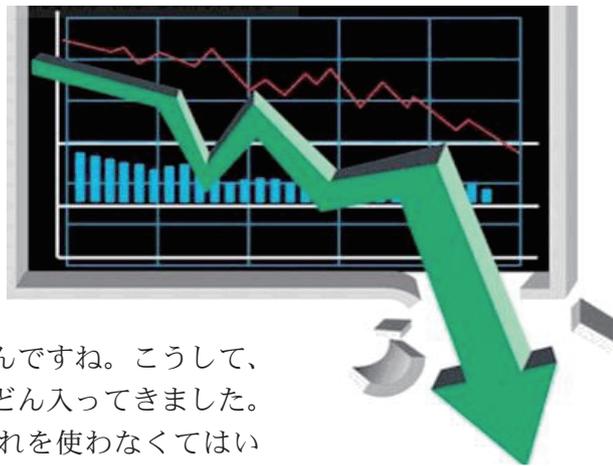
ぜでしょうか？アメリカの企業が自分たちの工場とか会社を、中国とか台湾といった、外国にどんどん建てていたからです。アメリカで人を雇うとお金がかかるので、国外に出て外国人を雇うわけです。そして、比較的貧しい国々で、安い賃金で生産させて、アメリカに輸入するわけです。例えば、1足の靴を作るのに、米国内で作ったら10ドルかかるとします。ところが中国で作ったら、1足につき1ドルしかかからないとしたらどうですか？それなら安い賃金で済む場所を選びますよね。そういうことが、実際に起こったわけです。そして、この貿易赤字が重なって、大きな負債へと膨れ上がっていったわけです。しかし一方で、中国は、アメリカとの貿易で大儲けをしたんです。メキシコも大儲けをしました。インドも大儲けをしました。イギリスも、ドイツも、日本も含め、韓国も、アメリカとの貿易において黒字になったわけですね。アメリカとの貿易で、多くの国が富を得ました。皆さんもご存知でしょうが、日本は、アメリカのおかげでお金持ちの国になりました。アメリカにたくさん物売ってなければ、これほどの富は築けなかったはずですよ。アメリカとの貿易によって、中国もお金持ちの国になりました。韓国も自分たちの作った物をアメリカに売って、お金持ちになりました。多くの国において、そういうことが起こりました。しかし、アメリカ人は頭がいいんです。こういうことを言いました。私たちのおかげでいっぱい儲けたでしょう。じゃあ、あなたたちの儲けたお金を私たちの市場に投資しなさい、と。いずれにしても、米国市場というのは、お金を投資するのに一番いい市場だったので、多くの国々が、儲けたお金を米国市場に投資して、米国経済がうるおっ



ていきました。アメリカの不動産や株や国債や、いろんなものにお金を投資していったわけです。そしたら、アメリカの銀行にたくさんのお金が入ってきました。そして、アメリカの中央銀行は、それをほかの銀行に貸し出すにあたって、利子を低く抑えたんですね。こうして、アメリカの銀行にお金がどんどん入ってきました。お金が貯まってきました。それを使わなくてはいけません。銀行はどうやってお金を儲けるんですか？企業や個人にお金を貸し出して、その利子で儲けるわけです。

「銀行とは、免許を持った強盗である」と、ある人たちは揶揄しています。強盗免許といったところでしょうか。通常、銀行は、信用できる個人や会社にお金を貸し出します。しかし、そうした後もまだ、いっぱいお金が残っていました。さらに儲けるために、手元のお金を使おうと思ったわけです。そこでサブプライムと呼ばれる人たち、つまり上流〔プライム〕ではない、下層階級を含む中流以下の下位〔サブ〕の人たちに、お金をどんどん貸し出すようになっていきました。安い利子でお金が借りられることになったので、たくさんの人たちが銀行からお金を借りるようになりました。そのお金で土地を買ったり、家を建てたりしたわけです。あまり銀行の信用を持っていない人でも、「いいですよ」と貸してくれたわけです。

これは、ある意味で悪い投資の方法でした。そして、こういう人たちが銀行からどんどんお金を借りて、なんでもかんでも買っていったわけです。需要が高くなると、不動産の価値がぐんと上がりますよね。ロサンゼルスとかニューヨークの辺りでは、住宅の価値がぐんと上がりました。そして、この土地にお金を投資すると儲かるぞ、とか、あそこにお金をつぎ込んだら儲かるぞ、ということになり、住宅や土地などの不動産に、人々がどんどんお金を投資するようになっていきました。そしたら、突如としてあることが起こりました。そのサブプライムの人たちは、ローンが払いきれなくて破産宣告の状態になりました。投機に失敗したり、失業したりして、とうとうローンが払えなくなって破産宣告をするわけです。1人、10人、1000人、1万人、100万人、何百万人という人たちが



が破産宣告をしたら、当然、問題になりますね。

そういった大勢の人たちが、借りたお金を銀行に返済することができなくなりました。もう払えないから、抵当の家を持って行ってくれということになりましたが、何百万もの家庭がこのよう

な形で破産したために、バブルでどんどん上がっていた土地の値段が、突然暴落したわけです。それに巻き込まれたのが、信用の高い、プライムと呼ばれていた人たちでした。結局、彼らも大損をしました。アメリカでは、誰もがローンで家を買います。15年、20年、30年払いといったローンを組むわけです。ローンの支払いができなくなって仕方なく家を売っても、家の価値がぐんと下がってしまったので、不動産を売り払っただけでは完済できず、残りの借金を支払うには全然足りません。例えば、銀行から75万ドル借りたのに、家の価値が40万ドルに下がってしまった。そしたらローンを払う意味が無くなる。何の儲けにもならないどころか、借金地獄に陥る危険が出てきました。こうなってはたまらん、というわけで、みんなが一気に家を売りに出したんです。

バブルが弾けて、住宅の価値が大暴落したわけです。同時に株価も暴落しました。こういったことが2008年に起こったわけですが、今年になっても株価は下げ止まらず、投資した人たちは何兆ドルというお金を失いました。特に、老後のために蓄えたお金を失ってしまった人たちが大勢いました。その結果、多くの、本来なら引退すべき人たちが、引退できなくなってしまいました。

これがアメリカ政府にとって、いま大きな重荷となっています。このアメリカでの危機が引き金となって、日本でも、中国でも、韓国でも、ドイツでも、イギリスでも、メキシコでも、大勢の人たちや企業が大損をしました。なぜでしょう？貿易黒字で得たお金をアメリカに再投資していたからです。

アメリカの銀行の総資産が約7兆ドルあるそうですが、貸付金総額が約11.5兆ドルだそうです。何かがおかしいですよ。つまり、自分たちの持つ

ていない分まで貸し出してしまったということです。その結果、1000行以上の銀行が閉鎖に追い込まれました。その巻き添えを食ったのが、それらの銀行に預金していた人たちでした。滑稽な馬鹿げた話だと思われるでしょうが、間もなく、それが皆さんに起こってしまうんです。例外はありません。すべての国に起こります。避けられない事態なんですね。ですから今、私たちは、神様だけに信頼を置くことを学ばなくてはいけないんです。このような事態が、間もなく私たちに起こります。

いま現在、アメリカ政府の借金が 14.3兆ドル あるそうです。10兆ドルがどのくらいか分かりますか？100ドル札を、600キロメートルもの高さに積み上げたぐらいです。想像を絶するほどの金額です。天文学的な数字ですよ。そして国内の負債を入れると、年金の基金、それから保険の基金とか、そういうのを全部入れると 100兆ドル以上の借金 をしています。つまりアメリカ合衆国政府は、将来のためにとってあった予算を、今の時点で使い果たしてしまった、という状態です。これは相当深刻な問題なのです。じきに、アメリカ中で暴動が起こります。

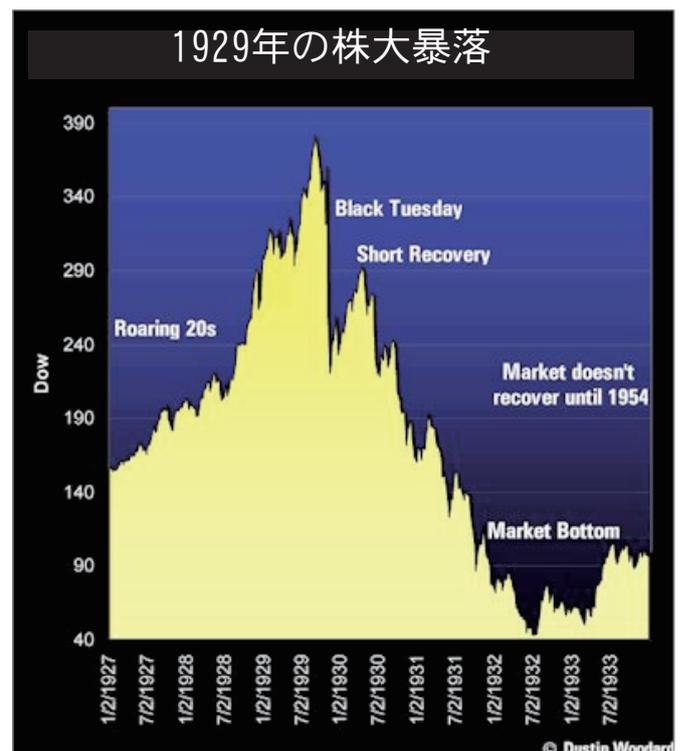
そしてアメリカは、そういった事態のための軍隊を持っています。機動隊のような軍隊です。徴兵されて、外国で兵役を終えた兵士たちが帰国してくると、彼らを集めて別の軍隊を作ります。暴動鎮圧のための軍隊です。そういった軍隊が、すべての大都市に配置されています。ひとつの都市で暴動が起きると、そのために備えられた兵士たちが、2時間でその都市を取り囲みます。なぜですか？それは、ひとつの都市で起こった暴動が、ほかの場所に飛び火するのを防ぐためなんです。そうしたら、誰も街に出入りすることができなくなります。もし都会を出なくてはいけないという事態になったら、2時間以内に出なくてはいけないわけです。アメリカでは様々な場所で、収容所みたいな施設が作られています。現在は空っぽなのですが、そういった施設は、あちらこちらで多く作られています。

私が住んでいる所から3時間ほど南に行きますと、遺体を入れる棺桶が100万個ぐらい置かれている場所があります。木製でも金属製でもなく、プラスチック製なんですね。このような棺桶が、広大な場所にいっぱい積み重ねられています。なぜだと思いますか？近い将来、自然災害、あるいは暴動、

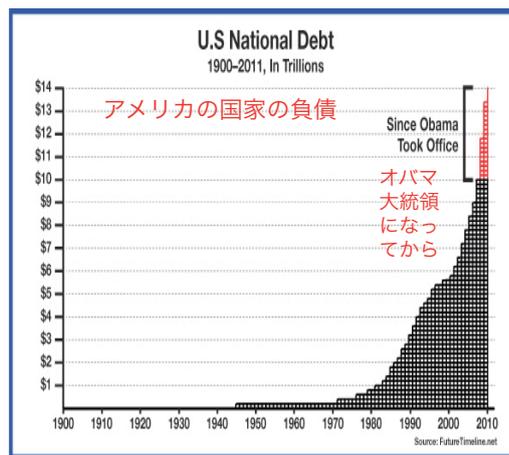
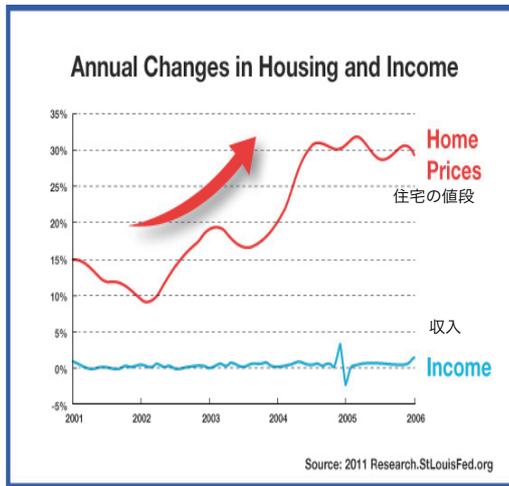
あるいは内戦といった事態において、大勢の犠牲者が出るということを、米国政府は想定し、備えをしているのです。

皆さんを怖がらせるために、このようなことを言っているわけではありません。私たちは、恐怖心によってイエスさまに近づくことはできませんから。いま現在、世界で実際に起こっていることを、申し上げているだけです。そして皆さんには、時が本当に短いということを知っていただきたいのです。

株式市場についてお話ししましょう。最近、株価がぐんと下がりました。上のグラフは、1929年に起こった株の暴落を表したグラフです。株価はいったん、どんどん上がって行って、それからぐんと落ちていきますね。当時、銀行が次から次へと閉鎖し、預金を下ろすことができなくなりました。これは、最近の株式市場を表したグラフですけども、非常に似通っていないでしょうか。まさしく大恐慌の歴史を繰り返していると言えます。今すでに大恐慌の段階に入っている、と言っている経済学者も少なくありません。2009年と2010年においては、救済措置法として、経済を刺激するために、政府がその場しのぎでどんどん紙幣を印刷してばらまきました。しかし失敗しました。大失敗でした。BRICSというのは、ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカといった国々で構成さ



れている組織ですけれども、これらの国々が、もう私たちは貿易の時に米ドルを使わないと宣言しました。イラン、イラク、ベネズエラも、石油販売の際のドルの支払受付を拒否しました。これは大問題であります。2008年以降、アメリカ中の567万戸の家が、抵当権実行の申請をしているそうです。アメリカ合衆国の信用格付けはどんどん落ちてきています。上の図表を見てください。青い線は米国民の収入を表しています。ほとんど変わらないですね。ところが収入に比べて住宅の値段はどんどん上がっていつているのが分かります。これはおかしな話です。これはまさに、不動産バブルが起こったことを示しています。アメリカ国民の収入、所得は増えていっていないのに、住宅の値段だけがどんどん上がっていったわけです。第二次世界大戦後、アメリカには多くの製造業者がいたので、就職口はいくらでもありました。だから経済的に落ち込んでも、すぐに回復することができました。ところが現在、米国は破産状態にあります。今にも政府が、破産宣告をしそうな状態です。遅かれ早かれ、アメリカは落ちぶれて、発展途上国のようになります。うそではありません。なぜだと思いませんか？アメリカでは、靴でも石けんでも服でもなんでも、外国で製造されたものが入って来て消費されるのですが、輸入品が断たれたら何も得られなくなります。アメリカのお店に行ったら、どの製品を見ても、中国、メキシコ、インド、日本、韓国といった場所で作られていることが分かります。もはや、メイドインUSAと書かれた品物は1つもありません。突如として、アメリカではティッシュペーパーすら買えなくなる状況がやってきます。ですから私は、最近このように勧めています。ティッシュを買っておきなさい。石けんも買ってきなさい。歯ブラシも歯磨き粉も買っておいならいいですよ。米も少しは蓄えておいてください。ナッツとか豆類も、いきなり店から全部無くなっちゃいますよと。うそではありません。そういう危機がもう間もな



くやって来ようとしています。誰かが、「カン先生、終わりの時代には何も食糧を蓄えてはいけなないと、ホワイト夫人は言っているのではないですか？」とおっしゃるかもしれません。しかしホワイト夫人は、恩恵期間が終了した後の、最後の7つの災害が降り注いでいる時のことを言っているのです。下の図は、アメリカ合衆国の、国家としての負債を表したグラフですけれども、どんどん積み上がっていますね。この赤い部分はオバマが大統領になってから積み上げられた負債です。

アメリカは本当に大変な状況です。大インフレが前途にきています。現在アメリカでは、いわゆるコソ泥が、非常に増えています。これまで、そんなにたくさんの泥棒はいませんでした。彼らは、食べ物、鉄、銅、

電線まで盗んでいきます。マンホールの蓋やタイヤも盗みます。こういった泥棒が、どんどん増えているんです。

比較的、最近の話ですけれども、ニューヨークで、ある韓国人の男性が、家から出て自分の車のところに行ったら、ひとりの男が彼の車からタイヤを盗んでいました。「私のタイヤだぞ」と言ったら、泥棒が「後ろの車を使ったらいいよ」と言ったそうです。後ろにももう1台、車があることを知っていたわけですね。ドルの価値がどんどん落ちてきています。そして国としての借金、負債は増える一方です。個人所得はほとんど変わっていないのに、株価は、どんどん上がっていつていませぬ。いつの日か、ぐんと下がると思いませんか？必ず暴落します。多くの人たちが大損をするでしょう。負債比率、つまり自分たちの収入に対しての負債額は、どんどん上がっています。負債だけが、どんどん膨れ上がっているわけです。

EU（ヨーロッパ連合）も大問題を抱えています。ギリシャ、ポルトガル、アイルランド、またイタリアやイギリスも例外ではなく、この問題はヨーロッパ中に広がろうとしています。どの国も、



借金苦でほとんど首が回らなくなっています。ヨーロッパにおいて、もし1つか2つの国がデフォルト宣言をしたら、ヨーロッパ中に飛び火することは必至です。

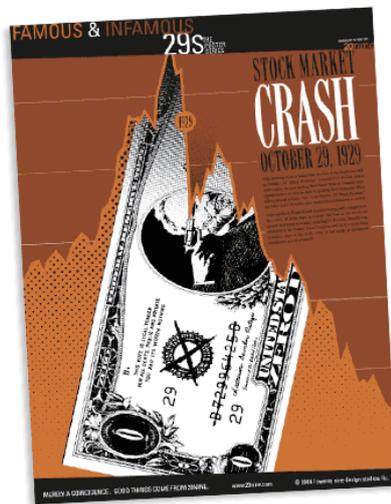
EUの国々は、IMF（国際通貨基金）やヨーロッパ中央銀行から多額のお金を借りているわけですね。その借金を支払いきれなくなった状態がデフォルト、いわゆる破産状態です。アメリカでは、金融の供給が300%に上がったと言いますが、それはどういうことかと言うと、どんどんドル紙幣を印刷し続けているということです。アメリカもヨーロッパも、大問題を抱えています。日本も大変深刻な状態です。今でも頑張っている唯一の国は中国です。いま現在、中国は2兆ドルのアメリカドルを保有しています。

しかし中国も難を免れないでしょう。成長しすぎたのです。そして、あまりにも手広く投資しすぎたんです。日本もかつて経済的に栄えた頃がありました。あまりにも多くの金額を、あまりにも手広く投資したために、大損したことがありますよね。今、中国で同じような問題が起こっています。現在、中国はまだ不動産バブルの状態です。多くの中国人が、お金を借りてまで不動産に投資しています。そのやり方は、アメリカ人から学んだんです。アメリカは、すべての国を侵略してしまったのです。まず初めにコカ・コーラで、それからブルー・ジーンズで侵略しました。次に映画で、さらには音楽で、アメリカはほぼすべての国を侵略しました。こうして、多くの若者の思考回路を破壊してしまったのです。世界中の人が、ピザ、マクドナルド・ハンバーガー、ケンタッ

キー・フライド・チキンといった、アメリカの食べ物ばかり食べるようになってしまいました。旅行すれば分かります。

どこへ行っても、若者たちはアメリカの食べ物を食べています。アメリカは、多くの国を文化的に滅ぼしつつあります。そして国内では、なりふり構わず紙幣を刷り続けてきたわけです。その結果、突如として経済は崩壊してしまいます。その結果インフレが起こります。1個のパンを買うために現金がたくさん要るようになります。1枚の郵便切手を買うのに、たくさんの現金を必要とするようになります。かつてドイツでそういう事態が起こったために、突如として現れた政党に政治を委ねることになり、それがヒトラー率いるナチス党だったわけです。

こういった経済状態、大恐慌が起こったらどうなると思いますか？人々は安全と平安を失ってしまいます。すると、何らかの独裁政権を求めようようになります。それしか生き残る道はないと思うようになるわけです。犯罪者を抑えるために、そして経済活動をコントロールするために、闇市場を抑え込むために、独裁政権が求められるようになるのです。ところが、今度起こる独裁政権は異なる種類のものになるでしょう。何だと思いませんか？法王教の宗教独裁です。日曜休業令です。「神様が怒っているから、教会に行きましょう」と。宗教的に人民をコントロール、支配しようとしています。「キリスト教の安息日に敬意を表しましょう」と。日曜日のことですよ。そういった問題は速やかにやって来ることでしょう。ニューヨーク大学のヌリエル・ルビニ教授は、経済の預言者と呼ばれている人ですけれども、彼は、「間もなく経済の大嵐がやって来る」と言っています。



現在、アメリカ国民の13%の人たちが、政府からの食糧援助を受けています。ヤコブ書5章1節から3節の状況が、現在起こっています。黙示録13章の15節：「それから、その獣の像に息を吹き込んで、その獣の像が物を言うことさえできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた」。私たちは額に生ける神の印を受けます。心から理解して自ら屈服するわけですね。獣の刻印も似

たようなものです。その状況を理解した上で、それを受け入れてしまうのです。

しかし、さらに多くの人たちが、右手に獣の刻印を受けることになります。多くのセブンスデー・アドベンチストの人たちが、右手に獣の刻印を受けるはめになります。私がそう言っているのではなく、証の書に書かれています。安息日遵守者の大多数が、獣の刻印を受けるであろうと、ホワイト夫人は言っています。なぜでしょうか？日曜休業令という法令が間違っていることを知っているにもかかわらず、神に対する信頼を十分に持っていないがゆえに、死ぬほどの恐怖心に駆られるのです。ローマ帝国時代の奴隷たちは、右手に刻印を受けました。刺青いれずみのように数字が刻まれたわけです。それは、脱走を防ぐためでした。近い将来、多くの人たちが、自ら食べていくために、子供たちに食べさせるために、獣の刻印を右手に受けることでしょう。

そのような事態を回避するために、都会を離れなさい、田舎に出なさいと、ホワイト夫人は何度も警告したわけですね。それでも神の民は、耳を貸そうとしませんでした。「この刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもしないことにした。この刻印は、その獣の名、または、その名の数字のことで

ある」(黙示録 13 : 17)。クリスチャンを含む多くの人たちが、手にマイクロチップを埋め込まれることが獣の刻印だと考えています。このような聖書の解釈は、イエズス会がクリスチャンを欺くためにでっち上げたものです。本当の反キリストである法王教から、人びとの目を逸らすことが目的でした。

多くの日曜教会の信者たちがそのように信じ教えており、そのように信じているセブンスデー・アドベンチストも少なくありません。しかし、それは欺瞞です。貧困が世界中に広がっていきます。一方アメリカでは、肥満が深刻な問題となってきました。自己中心、強欲の結果です。私たちの

助けはどこから来ると思われますか？危機に直面する備えはできていますか？神の民を最後に倒れさせるために、サタンは様々な方法を試してきました。そしてサタンの結論は、経済危機に陥れることです。サタンは、経済の問題で私たちを攻めてきます。では今、私たちは何をする必要がありますか？「恐れてはならない、私はあなたと共にいる。驚いてはならない。私はあなたの神である。私はあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手をもってあなたを支える」(イザヤ 41 : 10)。

自らを守る最善の方法は、金銀を買うことではなく、神の義をわがものとするのであります。永遠の敬虔の福音にあずかるのであります。そしてこの問題を、いま直面している問題を神さまに委ねて、恐れないうことであります。神さまが皆さんを封印し、天使らの羽をもって守ってくださいます。

今、私たちは、神さまの秘密の部屋に入る必要があります。なぜでしょうか？それがみ翼の陰に宿ることだからです。しかし神さまは、戒めを破る人たちを守ることはおできになりません。神さまが保護することのできる人たちは、戒めを守る人たちだけ。経済的に皆さんがやるべきことは、自らの状況を吟味し、

できるだけ早く最善を尽くして、いま抱えている借金から逃れることです。もし銀行に負債があるとして、この負債を避けるために何かをあきらめなければならないとすれば、その何かをあきらめてください。多くの負債を抱えたままでいるよりは、すべてを投げ捨てたほうがましなのです。ホワイト夫人は、らい病を恐れるように借金を恐れなさい、と言っています。負債から自由の身となって下さい。そして自分の土地を耕して、できるだけ自分の必要を賄まかなえるようにしましょう。自分で自分の食べ物を育てて得ることができれば、それがこの危機を乗り切る最善の方法であります。

自分の土地を耕して食物を得ることのできない



人たちはどうでしょう？今となつては、家族を養うためのあらゆる食物を畑から得るのは難しくなつてきています。しかも多くのクリスチャンは、こういった経験がありません。長年にわたって、神さまの警告に従って来なかったからです。非常に怠慢であったわけですね。快樂ばかり追い求めてきました。もしかしたら、自分の今の状態に目覚めて、何かをしようとしても、手遅れだと感じるかもしれません。私はいろんな国に行ってお話をします。多くの善良なクリスチャンが目覚めて、「ああ先生、どうしたらいいでしょう？私は用意ができていません」と言います。本当に用意ができていないんです。

じゃあ、どうしたらいいでしょう？まずできる限り早く、急いで借金を片をつけることです。たとえ家とか大事な物を失うことになろうとも、借金を避けましょう。そして食物を探しましょう。株を買うのではなくて、食べ物を買ひましょう。自分の家族を養うのに十分な土地を持っていないならば、穀類やナッツ類や豆類を蓄えましょう。もし可能ならば、乾燥した果物も手に入れて下さい。

カン先生は、行くところ行くところで、食べ物を買ひなさい食べ物を買ひなさいと訴えている、と言われますけれども、これが私の本来の意図ではありません。自分で育てられない状況のときに、代替策として、ひとつのアイデアとして皆さんに提供しているだけです。金銀や株などに投資しないで下さい。もし投資するお金があるならば、2つの方法でやってください。

まず神さまの働きにお金を捧げること、これが最善です。

第2に田舎に土地を求めること、これが第2の最善の方法です。そうすれば、神さまが祝福をもって報いて下さることでしょう。私は、皆さんを脅かすために、こういうことを言っているわけではありません。神の民が深い深い眠りに落ちているから、そこまで突っ込んだことを述べているのです。

昏睡状態に陥っている神の民は、いま何が起きているか、まったく理解していません。サタンはこれまで以上に暗躍し、やがて経済が破綻し、突如として危機がやってきます。多くの神の民が罫に掛かることでしょう。いちど掛かったら、逃れ

る術はありません。長年サタンは、このような罫を仕掛ける計画を推し進め、そのために神の僕が、長年、警告に次ぐ警告を与えてきたわけです。それでも、神の民は耳を傾けてきませんでした。もう世の中にどっぷり浸かっています。強欲で貪欲で、本当に自己中心になっています。それでも神さまは、私たちにまだ深い憐れみを注いで下さっています。私たちの仕える神様は、本当に情け深い方であります。

まだ少しの時間があります。どれだけの時間かは分かりません。1年なのか、2年なのか、そこまでは示されていません。私が言えるのは、時は本当に短いということだけであります。ですから今、イエス様に近づいて下さい。三天使の使命を順番に経験してください。そして人々に教えるときも、順序よく教えて下さい。

初めに、永遠の福音とは何かを教えてください。

次に、バビロンの誤謬と罪について語って下さい。それから第七日安息日について教えましょう。これが永遠の福音の経験であります。そして多くの人々が、神の戒めを守る民となる手助けをしてあげて下さい。

日本の兄弟姉妹方と、こうして時を過ごすことができたことを、本当に嬉しく思います。再び会うことがあるかもしれませんが、無いかもしれません。いずれにしても、天国で再会することを確実なものとしましょう。今こそ罪の除去の経験にあずかる時であります。罪に勝利するだけでなく、遅かれ早かれ罪をやめることになります。イエス・キリストの恵みによって。そして、イエスさまは私たちの罪の記録をことごとく消し去って、取り除いて下さいます。私たちがこの世で罪を犯し続けている間、それをするにはできません。これは重大な問題です。神様は私たちに罪をやめて欲しいと願っておられます。私たちは贖罪の日、贖いの日に生きているわけですから、イエス・キリストの恵みを理解しなくてはいけないのです。皆さんに神さまの祝福がありますように。皆さんのご家族の上に神さまの祝福がありますように。国が起こってから、かつてなかった程の悩みの時がやってくるときに、神様が皆さんを助けて下さいますように。



意志——我々の選択、

神の力

——どのように罪に勝利するのか——

デニス・プリビー
（アメイジングファクト スピーカー）

生まれながらの人、 または霊の人

1974年9月5日のレビューアンドヘラルドの論説に、一般社会においてクリスチャンが直面している最も重大な問題のひとつが掲載されています。下記のケネス・ウッドの論評は、我々が熟思するのに値するものです。

「おそらく教会をおびやかしている最も深刻な危険は、その独自性を失い、我々を取り巻いているこの世界ようになり、我々の教会学校や医療機関、教会の成長方法、出版物、教会の成長をはかる基準が、一般社会のものと区別がほとんどなくなってしまうことであろう。それにもかかわらず、教会内のわずかな人しかこの危険について関心がないように見える。あまりにも多くの人々が、成功

の基準をただ単に什一献金と教会員数の増加だと考えている。彼らは我々の教育機関の入学者数が増加し、正式な認定校であるならばすべてが順調だと自信を持っている。医療機関においても、ベッドの稼働率が良好で、予算の収支バランスが取れている限り満足しているようである。彼らは販売冊数が順調で、読者に好まれている限り我々の出版物にも満足している。我々の出版物は霊的価値に重要性を置いているのかどうか、アドベンチストのものだと見分けがつくものかどうかとの疑問をだれかが投げかける時、しばしば疑問を発する人は悪影響を及ぼす厄介者、又は狂信者だと考えられてしまう。教会内のほとんどの人は、たとえそれが建設的なものであっても批評されることを歓迎しない。多くの人々が現在の状況は完璧ではないかもしれないが、すべてが順調でかつてなかったほど良好だと言われたい。」

「まことの証人が、何の必要もないと言ったラオ

デキヤの自己満足を責めたことは何と真実であろうか。」

「けれども心に留めておくべき重要な事は、教会はその機関を、神の標準ではなくこの世の標準で運営できるということである。不成功の状態にある教会が、表面上では非常に成功を収めているように見えるかもしれないのである。財政上の著しい伸び、そして統計上の教会員数の増加が見られても、それは急激な霊的衰えを伴っているかもしれないのである。」

「しばらく前に、信仰深いクリスチャンである A. W. トーザーによって書かれた『深い人生への鍵』には驚くべきいくつかの言葉が書かれていた。その書の中で著者は言明している。『教会とこの世の間の境界線は抹消されているも同様の状態である。いくつかのものはだしい罪は別としても、世俗性から新たにされていない罪が、衝撃的な数の自称新生したクリスチャン、世に熱心に倣おうとしているクリスチャンによって現在承認されている。若いクリスチャンは、この世の愚にもつかないものを見本とし、できる限りそのようになろうと努力している。宗教指導者たちは、大言を吐き、おびき寄せを使い、恥知らずの仰々しさといったものを売り物にしているような人々のテクニックを、教会の働きに当然の方法として取り入れている。道徳的な風潮は新約聖書のものではなく、ハリウッドやブロードウェイである。ほとんどの福音主義者は、もはや先頭に立つ人ではなく真似る人である。そしてこの世が彼らの手本である』(p16)。

「この告発状は厳しすぎるであろうか？ そうは思っていない。あまりにも多くのクリスチャンが、外観やふるまいをこの世のものに習っている。彼らは率先するよりはむしろ模倣している。彼らは神の働きを進展させるために世俗の手法を教会に持ち込んでいる。」

「おそらくトーザーがラオデキヤの状態を見事に描写しているのは次の言葉であろう。『宗教的働きは、生まれながらの人によって、神の御霊の賜物なしになされることができる。そしてそれは巧みに、申し分なくなされるであろう。しかし永遠のための働きは、神の御霊によってのみなされる。神御自身が、救われた人の魂の中に宿られる

賜物としての御霊を通してなされる働きでなければ、どんな働きであってもそこには永遠のものはない。我々の中には御霊の賜物を持った人が不思議なほどいない。識別力の賜物を持った指導者が非常に必要とされているこの時にそのような人が存在しない。ゆえにこの世の方法に頼らざるを得ない状態なのである。この恐るべき時に、預言的洞察力の賜物を持つ人を声高く求める。けれどもその代わりにいるのは、アンケートや世論調査、討論会などといったものを計画する人々である』(p40, 41)。

「宗教的働きは、生まれながらの人によって、巧みに、申し分なくすることができるであろうか？ できるのである。医師は病気を治療することができる。外科医は手術を行うことができる。教師は教えることができ、実業家は事業を営むことができ、印刷工員は出版物を印刷することができる。看護師は病人の世話ができ、秘書はオフィスを管理することができる。編集者は編集する事ができ、会計係りは財務を処理することができる。そしてこれは限りなく続く。これらのすべての活動は生まれながらの人によってなされていくであろう。」

「生まれながらの人と霊の人との違いは、コリント第一の手紙 2：11-16（更にローマ 8：1-14）において非常に明白である。『生まれながらの人は、神の御霊の賜物を受け入れない。それは彼には愚かなものだからである』(Iコリント 2：14)。生まれながらの人は、神の御霊の勧告として聖書に述べられていることや、エレン・ホワイトの書物に書かれていることに絶対的に従うことの必要性を理解していない。生まれながらの人は、明らかにされた神のご意思から少しでもそれることの大きな危険性を理解していない。対照的に霊の人は、自己を信用せず、神の働きを神の方法でなせるよう熱心に求める。それゆえ、もし生まれながらの人が神の働きにおいて指導者の立場にあるならば教会は危険の中にある。」

「そうであるならば、何がラオデキヤに必要なのか。それは残りの教会のすべての指導者、すべての働き人が生まれながらの人ではなく、霊の人であるということである。我々の応答は何であろうか。我々の欠陥を弁解し、必要性の不足を訴え続けるのであろうか。それとも悔い改めるであろう

か。」

「我々が結論を下すまでの間、イエスは戸の外に立って待っておられる。」

この編集者は、終末時代に生きているクリスチャンが直面している霊的な問題点をよく見極めています。私たちは生まれながらの男女になることの熟練者になってしまいました。私たちはこの世俗社会の中で、生来の方法を使ってどのように仕事をし、テストに合格し、物事を成し遂げるのかという方法を習得してきました。私はまた、宗教的なことや、教会の運営に、生来の方法を使うことの達人になってしまったのではないかと懸念しています。今日、私たちに絶対に必要なことは、どのように霊の男女になるかということを知ることです。これはみ国に連なるための鍵であるばかりでなく、この地上の神の教会における成功の鍵でもあるのです。

私たちはみな、生来の性質を持った男女としてこの世に生まれました。私たちは霊の男女として生まれ変わらなければなりません。以下はどのように霊の人になるのかという問いに焦点をあてていきます。

もし私たちが本当に霊の男女になりたいならば、必ず覚えておかなければならない3つの原則があります。

第一の原則 神は我々の味方である

1984年のウィマー教育センターの機関紙に、ディック・ウィンによって書かれた下記の記事があります。

「車を運転するにはまだ早すぎる年齢だったが、そのまま放っておくにはあまりにも魅惑的な一台の車があった。トムは父親が息子のために買っていただいたものだ。ジャックラビットクラッチがついている1930年型のシボレー・クーペで、息子が正式な免許を取って運転できるようになるまでは、父親の管理下に置かれていた。」

「けれども兄のラリーと少年時代の相棒トム、ト

ムの隣の家の友達が集まった時には、我々をいたずらから遠ざけられるものは何もなかった。工具をどのように持つのかさえわからなかったが、試行錯誤を繰り返し、とうとうやりとげてしまった。あまりにも退屈なある日曜日の午後、古いシボレーを生き返らせた。頑丈な鉄製のブルーフレーム6というエンジンがポンポンと音を立てはじめた。それからエンジン音がスムーズになってくると我々は興奮した。ボンネットの周りを本当に飛び踊りながらお互いの背中をたたきあい、嬉しさを隠しきれない顔を見合わせ、ハンドルを握ってこの車の力を味わうまでは、エンジンを切らないという暗黙の了解をした。」

「我々はトムの家から一般道路まで続いている長い砂利の私道に目を向けた。そして計画は早速実行に移された。もちろんトムが最初に運転する権利があった。トムの友達がその隣に飛び乗った。兄のラリーと自分は、ランニングボード（ドアの下の踏み台）に乗った。トムは後輪の泥除けに砂利が勢いよく散乱するほどにすばやく車を逆走させた。我々は代わる代わる運転をした。片道はバックで走りそれからローギヤーでまた戻る。自信がついていくにつれ、ローギヤーからセカンドギヤーに変えることもできるようになった。」



「午後遅くなってきた頃には、まっすぐな道をただ単に往復することにだんだんスリルを失っていた。そして我々は、トムの家はほとんど車の通らない田舎道に入ったところにあるのだから、舗装された一般道路に出てトムの家に続く砂利道を曲がる練習をしても安全だという結論を下した。それから運転距離は毎回長くなり、一般道路からトムの家に続く道を曲がる速度も増していった。そして一番楽しめるのは、ランニングボードに立っていることだということもわかった。」

「決定的な運命の時とでも言うべき最後の運転は、トムの友達がハンドルを握り、今まで以上のスピードを出して砂利道のカーブを90度に曲がろうと決めた。直角に左折する車の最大のスリル

を味わうために、トムとラリーは右側のランニングボードに乗った。自分は一番安全な左側のランニングボードに乗った。」

「ところがトムの友達はやりすぎた。あまりにも速いスピードで90度に左折した車はカーブで傾き、右側の柵に危機一髪であたる場所だった。トムとラリーは、すぐにランニングボードから柵の向こう側の牧草地に飛び降り転がった。安全な場所に立っていた私は、トムとラリーの無様な姿を大声で笑った。ところがそれから一瞬のうちに、方向を修正しようとハンドルを切りすぎてしまった車は、今度は私が乗っていた側の柵にめがけてきた。私の腰は太い支柱に打ち付けられ、支柱はなぎ倒された。その衝撃でランニングボードから叩き落され、私のかかとは後輪の下敷きになってしまった。」

「砂ぼこりがおさまりはじめるにつれ、みんなが走っていることに気づいた。トムの父親はすでに家の外に出ていて、玄関のポーチから階段を降りてくるところだった。トムとトムの友達、ラリーは私のところに駆けてくるなり言った。『痛くないふりをするんだ!』彼らの声は無声音であったもののかなり強い口調で懇願している。『そうじゃないと僕たち大変なことになっちゃうよ』。あまりのことに呆然としていて何がおこっているのかまだよく理解していなかったが、私は頑張っただけで彼らの言う通りにしようとした。『歩くんだ!』彼らは焦っていた。『トムのお父さんすごい剣幕で怒ってるみたいだよ!』私は立ち上がって歩こうとした。けれども左の足首のあたりが私の体重を支えることができなかった。『早くしてくれよ!』彼らは懇願する。『あー、トムのお父さん、すぐそこにいるよ、たいへんだよ!』」

「私はついに自分の足首を見た。足首はねじれ、内側に90度も曲がってしまっていた。痛みはまだ感じるどころまでできていなかったの、私は笑った。大変な問題が起きているのはこの足首なのに、トムのお父さんと問題がおこることを何よりも心配する三人の連中がここにいる!」

「この愚かで失笑を買うような出来事は、それ以来長い間私たちを笑わせた。けれども最近になって、もっと広い観点からこの出来事を考えるようになった。だれもトムの父親の怒りを怖がる必要

はなかったのだ。我々は自分たちの愚かさがひきおこした恐ろしい結果に怯えるのではなく、トムの父親の長年の経験、そして賢明な判断力にたよれば、あのような愚かなことをしなくてもいいように助けてくれたであろうに!」

「そして私は、私が神の戒めを犯した時に、『律法の与え主を怒らせてしまった!』といつも心配していた頃のことを思い出した。我々は神に対して玄関の階段を飛び降りてきたようなトムの父親と同様のイメージを抱いている。自分自身で引き起こしてしまった痛み悲しみを無視し、怒りがやってきて絶対に自分に罰が下るだろうとの恐れで震えている。」

「我々は自分は傷ついていないふりをし、そう自分を信じ込ませ、言い逃れをしようとさえする。そしてその空威張りによって、神の怒りを少なくできると期待する。けれども確かに、罪の問題は律法の与え主を怒らせてしまったと考えることで、罪によって起こった我々の痛み気づかないでいる。我々は神が我々を苦しめるためではなく、すでに苦しみの中にあるがゆえに我々の所に来てくださるのだということを理解していない。神は罰を下すためではなく救うために近づいてくださる。『神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである』(ヨハネ3:17)。そして神がすぐそばまでやってきた時に、神の目に涙があることを見損ねている。」

霊の男女になるための探求において確認しなければならない第一のことは、我々の神に対する観念です。神様は我々が神の要求にかなっていないかどうかを確かめ、そして罪に勝利することを強要しているではありません。神様は私たちが霊の足首を何度も怪我をしなくてもいいように助けてくださるのです。神様は我々を裁くために待っておられるのではなく、助けるために来てくださるのです。それは我々の痛みを取り除くためです。もし私たちがすべてのことにおいて、神が私たちの味方であるということが理解できないならば、我々は頑張っただけで失敗し、落胆してあきらめきってしまうまで更に頑張っただけでまた失敗することになるのです。もし私たちが神様は本当に私たちの味方であり、同情して下さり、勝利できるように

助けてくださるということを理解できるなら、我々は本当の勝利を経験する機会を獲得するのです。

第二の原則 漂流することの危険

1986年9月のAmazing Factsの会報誌に、この第二の原則が説明されています。

「あてもなく漂い、正しい進路からはずれることは、未信者の人々と同じように教会の信者にも多大な悪影響を及ぼすことのひとつである。我々は船が下流に向かって浮かんでいるように、穏やかにそして静かに流されている。これは無意識のうちになされる過程である。なぜなら我々はあまりにも大きな流れの上を漂っているからである。この流れは我々の内側と外側の両方にある。我々の内側にある流れは安逸、安楽、肉欲的食欲、世俗精神という生来の欲求に運んでいく。我々を取り囲んでいるもうひとつの流れも同じ方向へ向かっている。それは人生そのものという偉大な流れ、時代精神、社会の慣習、習慣、物質主義、文学、娯楽などである。我々を取り巻いているこれらのすべての流れは我々の間近にあり、絶え間なく我々に接触し、影響を及ぼしている。そして我々の魂の中に同類のものを見つけるとしっかりと結びつく。」

「下流に流れていくためには、何の努力も大波の波頭に運んでもらう必要もない。漂う人生に必要なことのすべては、ただくつろいで努力をせず、我々の内側と周囲にある世俗の影響を甘受すればよい。なぜなら漂う人生はとても魅力的でたやすい道であるからだ・・・キリストは人々に、波に揺さぶられ、木の葉のように浮かんでいるような人生の歩みを避け、常に自分が主導権を取り、決断していくことができるようにと忠告している。ノアの時代の罪の宣告下にあった人々は暴虐な人ばかりではなかった。しかし彼らは自己を省みることをせず、ただ表面的にあてもなく生きているだけであった。自分の弱さに身を任せ、社会の感化力に影響され、神のおとずれの日まで飲み食いしていた。」

「救われるためには勤勉さや思慮深さ、そして自己訓練が必要である。滅びるためにはこれらのものは何も要求されない。ただ必要なことは流れに身を任せることだけである。私たちはたとえ航海進路から離れ、靈的感受性が鈍くなっていることに気づいたとしても、少しの努力が自分の内にあれば、いつでもすべての状態を一変させることができる、常に心の中に偽りの望みを抱いている。」

「ある冬の日、ナイアガラ滝に向かって流れている川の上の小枝に、一羽の鳥がとまっていた。まさしくその光景は、滑るような速さの川の流れを楽しんでいるようであった。鳥は危険だという感覚はない。なぜ恐れる必要があるのだ？鳥は羽があるではないか。危険な地点にやってきたら、ただ飛び立てばよいではないか。鳥もそう思っているかのように心配とは無縁に、目もくらむような滝つぼの末端にくるまで小枝の上でくつろいでいた。」



「いよいよ危険な地点にきたその瞬間、鳥は飛び立とうとした。ところが何てことだ！それができなかった。川の表面を覆っていた霧状の水が鳥の羽の上で凍りついてしまっていた。そして川の水が滝つぼに勢いよく落ちていくと同時に鳥は流されてしまった。我々のただ成り行きに身を任せるという習慣が定着してしまっ、そこから自由になりたいと考えても、もはや不可能になってしまうという大変な危険がここにあるのではないだろうか。」

「我々を滅ぼしてしまうおそれのある漂う人生の影響による悲惨な結果を終わらせるにはどうしたらよいのか。ヘブルの著者は実際的な勧告をしている。『わたしたちは聞かされていることをいっそう強く心に留めねばならない、そうでないとおし流されてしまう』（ヘブル2:1）。『聞かされていること』とは、私たちが道徳的、靈的に健全にしてくれる偉大な福音の真理、真価、そして警告である。」

「キリストのご生涯の物語をもう一度読み、そして人生の漂流に徹底的に抵抗したことを証した偉

大なイエスの十字架を熟考しよう。そしてキリストと同類の忍耐力を心の底から望むまで、主の強い抵抗を心で捕らえ、我々の心の奥底まで満たそう。流されてしまうことから完全に逃れることができるものはただひとつであって、それは安全に固定された錨である。しっかり錨をおろされた船は決して流されてしまうことはない。信仰、希望、愛、奉仕という4つのケーブルを意識的につなげ、意識的に確かめ続けることによってキリストに錨をおろした人生は決して流されることはない。」

この第二の原則は惰眠に対して活発に戦うということです。 私たちはこの世の流れ、そして我々の生まれながらの怠惰と自己中心の流れに抵抗することなく、人生という川を流れて目的地に達するという事はできません。もし私たちが霊の男女になりたいとの願いがあるならば、私たちはその過程のために、自ら率先して努力していかなければなりません。

「人は天国まで引っ張られることはできません。つまりただの乗客として行くことはできません。彼は、彼自身で（船の）オールを使わなければならないのです。神の共労者として共に働くのです。もしあなたがオールを下に置いて、そして上流に進んでいけると考えているのなら、あなたは間違っています。あなたが力をつくしてオールを漕ぐことによる熱心な努力だけが、流れに抵抗できるのです」(OHC p310)。

第三の原則 意志を働かせる

パシフィックユニオンカレッジの校内新聞(1984)にマリアン・ニッテルは下記の記事を投稿しています。

「背の高い人影がドアを開け、部屋に入り、学生寮の窓の下にあった黄色いビーンバッグチェアに音を立てて座りました。『最近どう?』私が聞くと『どうにか・・・』と自信のない彼の声が返ってきます。私は椅子の背にもたれかかりながらも首を彼の方に傾け、そのまま話が続けるのを待ちましたが、彼は話を続けるかわりにビーンバッグの端を

つまみはじめました。『なんだか自信なさそうね。』私はゆっくりと話しかけました。すると彼は突然言ったのです。『これから何をしたらいいんだ? やめたいと思っていることがあって、神様にそれをやめられるようお願いした。けどこの誘惑が来ると、それを止められないんだ。その誘惑が来るまではすべてが順調なのに・・・。』『朝、神様と交わる時間はあるの?』彼はためらいがちに『ある』と答えました。『だけど、それでも失敗し続けるんだ。』『神様にお祈りして聖書を学んでも、まだ問題は解決しないということ!?!』『その通りなんだ。』



「あなただったら、この学生に何と言いますか? 神の側に力が欠けているということは明らかにありえません。神が言葉を発せられると、水のおもてから地があらわれます。神が言葉を発せられると、星は存在し輝きます。神の天の軍勢は、一夜のうちに18万5千人もの人間を滅ぼしました。復活の朝は、神のたったひとりの御使いの前から、すべてのサタンの軍勢は逃げ去ったのです。」

「明らかに問題があるのはこの自分だ。もっと頑張らなければいけないのか? またか? ただ失敗することがわかっているのにもっと奮闘するのか?! 誘惑に勝利するのにもっと努力をするなんて考えるのも耐えられない! けれども希望があるので。その希望は長い間神学者たちから放置され、誤解されてきた言葉にあるのです。それは意志です。」

「私たちの意志は、スペース・シャトルの3つの主要なエンジンに点火するための最終スイッチのようなものです。スイッチを入れるとすぐに、発射台を焦がし尽くしてしまいそうな何百トンもの推進力が働き、約2000トン、18階の宇宙船は、発射台から天に向かっ



て空中に飛び出すのです。それから数秒のうちに、最初のエンジンの5倍の力のある燃料で満ちた2つのロケットに点火され、瞬く間に宇宙船は遙か遠くに行ってしまう。この猛烈な爆発的力のすべては、弱い一人の人間の手が、何の変哲もないスイッチを動かすことによって始まったのです。」

「私たちはしばしば、古い習慣、恐れといったもので作られた城の中に閉じこもってしまいます。私たちは城壁の周辺にお堀を掘り、つり上げ橋を作ります。そして多くの場合、ロープをゆるめ橋をかけるかわりに、『王子イエスよ来てください、この城を占領してください!』と言いながら自分の大切な人生にしがみついているのです。私たちは橋をかけることを選んでいません。私たちは手放すことを選ばなければならないのです。」

「私たちの人生において誘惑がやってくる時、真っ暗闇の部屋の中のほんの少しだけ開かれたクローゼットのドアから、過去の人食い鬼が叫んでいるように思えるときがあります。その暗闇は罪のように暗く、海辺の波のように脳にとどろきます。すべては敗北と失望のように見え、暗黒の力が勝利しているようです。—それはある力のことを思い出すまでですが—私たちは天井の電球と、壁の電源をつなぐという行動を起こさなければならないのです。それらしいことをしても部屋の光はつきません。私たちはスイッチを入れなければならないのです。信仰はそこに電源があることを信じ、そして意志がスイッチを入れるのです。壁にある電源を入れることで電球から光が出ます。クローゼットは閉じられ、そして鬼は叫びを止めます。結果として光と平和が来て戦いは終わります。」

「私は意志について学んできたことを、黄色いビーンバッグチェアの自信喪失の青年に話しました。彼はまだそれを試していませんでした。そう、それだったのです。もちろんそれだったのです。彼もそれが答えであろうとわかったようでした。『ありがとう』と彼は部屋を去るときに言いました。私は廊下を歩く彼を見送りましたが、彼の足取りが軽いように見えました。」

霊の男女になること、漂う人生をやめること、罪に勝利すること、これらのすべては意志に中心

があると言っても過言ではありません。注意していただきたいのは、ここでは意志の力について言っているのではないということです。また、忍耐力や決断力のことを言っているのでもありません。意志は選択をする過程のことです。それはどのように私たちが選択をするのかということに関してです。私たちは生来の人間の方法ではなく、違った力の源から力を得ることを選びたいと思います。

決定の力

青年への使命 146-151 ページに、我々個人の救いに関して最も重要な概念のひとつが書かれています。「純潔な宗教は意志と関係があります。意志は人の性質の中で支配的な力を持ち、他のすべての能力を支配します。意志は趣味や好みではなくそれは決定する力であり、人の子らの内部に働いて、神に従うか、それとも従わないかのどちらかに至らせます。」ここで気づいていただきたいのは、意志は我々の感情や墮落した性質ではないということです。それは決定をする力、スイッチであり、どの方向に我々の考えを向けるのかを決定することです。そしてこの文章は警告とともに次のように続きます。「意志の真の力を悟るまでは、たえず危険があります。あなたは何でも信じて約束するかもしれませんが、あなたの約束や信仰は、あなたの意志を、信仰と行為の傍らに置かなければ価値がありません・・・しかし決して失望するには及びません。たとえ何ものも自分にとって真実に見えなくても断固として信じなければなりません。」ここには意志のどこが感情や気持ちと違うのかということが明確に書かれています。イエス様が十字架で亡くなられる直前、イエス様のお気持ちは肯定的または否定的のどちらであったのでしょうか。靈感の書には、かつて私が読んだことのない最も驚くべき言葉のひとつが書かれています。「救い主は墓の入り口から奥を見通すことができにならなかった。キリストが征服者として墓から出てこられることや、犠牲が天父に受け入れられることについては望みは与えられなかった」(各時代の希望下 p275)。キリストはご自分がよみがえることはありえないという気持ちを抱かれて

いました。その時イエス様は何をなさらなければならなかったのでしょうか。心の中のスイッチを入れなければなりません。それは、キリストの意志のスイッチです。そして言いました。私には何も真実で現実には思えないが信じる。私は父の顔を再び見ることはできないかもしれないが、私は父を信頼し、自分の最善を尽くすことを選ぶ。

霊感の言葉は続きます。「あなたは自分の衝動や感情を思うように抑制できないかもしれませんが。しかしあなたの意志をコントロールすることはできます」。この原則を理解するまで、我々は絶えず大きな危険の中にいることになるのです。すべてが不可能に見え、感情を抑制できなくなった時にどうしたらいいのでしょうか？朝目が覚め、意気消沈している時でも、感情や気分は信用できるものではないと言うことを覚えていなければなりません。この時点で私たちがすべきことは意志のスイッチを入れることです。感情は抑制下にはいけません。けれども意志をコントロールすることはできるのです。意志をキリストの側に固く保つことによってすべての感情はキリストの意志に従うのです。

だれが感情や衝動を抑制できるのでしょうか？私は全くそのような力はありません。けれども神様は、私たちのうちに働きかけて志をおこさせ、それをさせてくださるのです。けれどもこれが起こる前、とにかく私たちは神の力を他の何ものにも増して求めることを決心しなければなりません。私の意志—私の決めた選択—がすべての出発点なのです。私たちが行うすべての事、それが肯定的なものであろうが否定的なものであろうが、それは意志が決定したことの結果なのです。それゆえに我々が失われてしまう罪は、生まれながらに受け継いでいるものではありません。罪は常に意志が行為となったもので、選択の責任はいつも私にあるのです。「あなたの意志があなたの行為の泉であることを忘れてはなりません」。

神様は、「意志を神の側に堅く保つときに、いっさいの感情はイエスの意志に従う。」と約束してくださっています。ここに絶えず感情や衝動によって悩まされている我々すべての人々に対する神の約束があります。もし私たちが意志をイエス様に明け渡すのなら、彼が私たちの感情に対処してく

ださるのです。イエス様は、「あなた自身を私に従わせなさい、あなたの意志をサタンの支配からとり去って私に与えなさい、そうしたら私はあなたの意志を支配する」と言われます。私たちの内の多くの人々が、私たちの最初の両親が墮落して以来、意志はサタンの支配下にあるということを理解することなしに、キリストに意志をお捧げしようと努力してはいないのでしょうか。私たちは自分が自分という船の操縦士であって、自分で自分をコントロールするのだと考えたいのです。もし私たちの意志がキリストの御手にないならば、サタンが私たちをコントロールしているということを考えてみたことがあるでしょうか。だれも自分の心臓を鼓動させ、呼吸をするために肺を機能させることができないのですから、私たちはもっと高い力の支配下にあるのだということを認めなければなりません。意志はキリスト、またはサタンのどちらかが支配することになり、そして私たちがただひとつすることは、だれにそれを支配してもらうのかを選ぶことです。私たちは、サタンの手から意志を取り、キリストにそれを差し上げることを第一の選択にしなければなりません。私たちはこのように言わなければなりません。あなたが私にくださった意志をサタンの手から取り出します。サタンはこれ以上それを所有する権利はありません。私は、私の意志をキリスト・イエスの支配下にお捧げすることを選びます。

意志を明け渡す

それでは神様にのみ私たちの意志をコントロールしていただくためには、具体的にどのように意志を働かせたらよいのでしょうか。もし私たちの人生において神に働いていただきたいのであれば、とても基本的なことですが、はじめになすべきことがあります。「人々はみなサタンに勝利させないように感覚を守らなければならない。なぜなら感覚は魂に通じる道だからである。あなたはもし自分の心を制し、むなしく退廃的な思いで心をけがしたくないと思うなら、自分の目や耳やすべての感覚を守る忠実な門番とならなければならない。恵みの力だけがこの最も願わしい仕事を成しとげることができるのである」(アドベンチストホーム455)。私たちの思想の

大部分は、私たちの感覚器官を通して心に入ってくる様々な情報によって生じてくるものなのです。ですから第一に、そして最も基本的な事は、私が何を聞き取るのかを決めることです。神様はこれらの決定を私たちに代わってすることはできません。なぜなら選択の自由という原則を犯すことになるからです。神様は神のかたちにかたどって造られた者たちのために選択をすることはしません。けれども私たちが神の方法を選ぶ時、私たちに力がなくてできないことをして下さるために、神様は、ご自身の力と共に私たちの人生に介入することの許しを得ることになるのです。もし意志がどのような時でも正しく働いているのなら、サタンが継続的に感覚器官を通して入ってくる攻撃はできません。私たちは、サタンが私たちの心に入ってくることを完全に拒否しなければなりません。もちろんサタンはこの決心に激怒し、何倍もの力を増して私たちの決心を破壊しようとするでしょう。この時に神の恵みと力によって、私たちが良い目的を持ち、正しい選択をすることができるように絶え間なく祈る必要があります。

祝福の山 (p61, 62) を読むと、もし意志を正しく働かせたいのならば、いくつかの基本的なステップを踏んでゆく必要があることがわかります。「意志は神にささげなければならないが、それは練りきよめられ、神の思いと一つに結びついたその意志を私たちが再び受けて神がご自分の愛と大能の潮流をわたしたちを通して注ぐことができるようになるためである」。まずはじめに、私たちは意志をサタンの支配下から取り出さなければなりません。そして意識的にそれをイエス様に差し上げなくてはなりません。私たちはこの過程を次のように言うことができます。イエス様、私は私の意志をあなたに差し上げます。私はこの決定の過程をあなたのみ手におゆだねする選択をいたします。これによってイエス様は私たちの内できよめ、洗練することをなす許しを得ることになるのです。そして私たちの意志をイエス様に差し上げた時よりも更に良いものにして私たちに戻して下さるのです。

ここが意志の力がはいつてくるころなのです。私たちは、私たち自身の努力、そして決心から意志の力を作り出すことはできません。私たちが自分の弱い意志をキリストに差し出す時に、キリストは彼の力と共に意志を私たちに戻して下さるのです。私たちの意志+キリストの力=意志の力なのです。

復習です。はじめに意志は感覚器官から入ってこようとするものに対して忠実な門番になっていなければなりません。そして次の段階はとても基本的なことですが、近道はありません。

- 1) 意志をサタンの手から取り出す。
- 2) 意志をキリストのみ手にお渡しする。
- 3) キリストは、私たちが良い決心をなすための力を満たして私たちに戻して下さる。

「わたしたちが、この高い理想に達するためには、魂をつまずかせるものは犠牲にしなければならない。」さて、この全過程の一番困難なところまでやってきました。ここでは自己が生き残るために必死に激しく戦う所です。「わたしたちが罪の支配下にあるのは意志によるのである。この意志を服従させることが目を抜き出したり手を切り取ったりするという表現で表されているのである。意志を神に従わせることは、人生を不具のからだで過ごすかのように見えることがよくある」。この言葉は現在人気のある次のような福音、「あなたがすべきことは、ただイエスがあなたのために死なれたことを信じるだけだ。そしてこれが、あなたの天国への確証なのだ」、と同じように聞こえますか？

これから私が意志についてお分かちしたいすべての中心点です。そしてここに、私たちの人生を敗北から勝利に変える、つまり罪に勝利するクリスチャンになるための秘訣があります。これはとても単純なことなのですが、実際に行うことが困難なのです。意志は本来邪悪で、サタンの示唆に自然に従ってしまう傾向があるので、自分の反逆的な心の責任をとることを避けるために、へりくつや言い訳を言い、疑い、正当化し、非難をするなど、どのようなことでもする衝動に駆られます。もし私たちが自分自身を反逆的で、邪悪な人間として認めないならば、神様が私たちのためになされることは何もないのです。これを認めることはとても難しいことです。なぜなら私たちは人生のほとんどを、他の人にどうか自分をよく見せようと費やしてきているからです。それゆえに、ニュースで絶えず耳にしているようなおそろしいことをしないだけなのです。けれども社会の圧力というこの社会の表面を覆っているものを取り除き、仕事の保障や、仲間から認められる必要が生じたときに、イエスの手に釘を打ちつけた兵士と同じところに私はいるのです。私は、私自身

を本当に邪悪で、反逆的な人間だということを認識しなければなりません。私は天の道とは全く調和しておらず、神の御前にいることに全くふさわしい者でもなければ幸福でもないということを認識しなければなりません。手も目も両方が私たちの大切な体の一部ではないですか？私たちはそれらを保つためにどのようなことでもするでしょう。しかしながら私たちの意志を神に明け渡すということは、まさしく手を切り取ったり、目をくり抜いたりするような気持ちだということです。あなたは意志を明け渡すということを本気で考えているのですか？それはこれからの生活を不具で過ごさなければならぬという意味なのです。目はもはや見たいものを見れなくなり、手はしたいことができなくなるのです。一体これからの人生の何が楽しいのでしょうか。もう一度人生を楽しむことができるのでしょうか。私はこれから堅物、狂信者と呼ばれ、友達もいない過激主義者になるかもしれない。そんなことはできないと言うでしょう。

この自己切断、喪失の恐れに真正面から向き合うまでは、意志をキリストに明け渡すということは全く不可能なことなのです。私たちはどんなに罪が私たちの内に深く入り込んでしまっているのか、どんなに罪、自己中心、醜悪が自分をコントロールしているのか気づかなければなりません。そしてそれから、私たちは外科医のメスを求めなければなりません。自分の意志で私たちの自我をメスで切り取ってもらうことを願うことは簡単なことではありません。けれどももし私たちがそれを願い求めれば、自己中心という癌は、どのような機会でも狙って私たちから永遠の命を奪ってしまうのです。自我は性質から必ず切り取られなければなりません。

私たちすべての者は、サタンの世界に渡るための橋を作っています。私たちはいつもその橋を渡るわけではありません。けれども橋がそこにあり、そして何かの衝動に駆られた時、又は必要だと感じた時に渡れる橋があるということが安心なのです。意志を神に明け渡すという意味は、これらのすべての橋を焼き尽くしてしまい、それを再び作る可能性を全く無くしてしまうという意味なのです。それは何と暗い将来に思えることでしょうか。もしこれらの橋がもう存在していないのなら、これからどのように生活したらいいのでしょうか。宗教というのはただ私を不具者にする事なのか！

まさしくここが、私たちが神と共に決死の努力を

するところなのです。今までの人生で味わったことがない程の苦痛と困難を伴うことを保障します。なぜなら自己に死ぬというのはとてもとても困難なことなのです。意志を神に明け渡すという努力はすさまじいもので、人生そのものが終わりに来たかのように思えます。けれども私たちの醜悪、利己主義を喜んで放棄し、神にサタンの世界に架けることのできる橋をすべて焼き尽くしてしまうことを快く承諾し、私たちの退屈な人生を価値ある生活にするための大切な偶像を率先して捨ててしまえばすべての戦いは終わるのです。ああ、これからいくつの戦いがあるのでしょうか。けれどもこれが戦いなのです。戦いは安息日遵守に関してではなく、服装や食生活に関するものでもありません。戦いは意志に関するのです。意志がキリストに明け渡される時、他のすべてのことは神の意志と調和して導かれていくのです。

この原則は、救霊の働きにそのまま適用されます。まだ回心していない人にライフスタイルを変えることを勧めることは賢明なことではありません。私たちが耳にしている多くのことは順序が反対です。私たちは試験となる真理に直面させる以前に、その人が真に回心しているのかどうかを確かめなければなりません。なぜなら回心が起これば、すべてのライフスタイルの改革は簡単に引き続いておこってくるからです。

私たちクリスチャン一人一人も同じ問題を持っています。私たちが討論している多くの事からは全く本当の問題ではないのです。本当の問題は心、そして意志です。一度意志を明け渡し、橋を焼き尽くしてしまえば多くの困難な問題は簡単に解決されるのです。主は何が正しく何が誤りであるのかを私たちが理解できるように導いてくださり、そして私たちは主のご計画に熱心に従っていくようになるのです。

サタンの力を破壊する

さてキリストに意志を明け渡した結果がどのようなのか考察するところまできました。

「サタンはわれわれよりももっと彼の力の限界を知っており、もしわれわれが抵抗し、立ち向かうならば、彼はいとも簡単に克服されてしまう。神の力

によれば、最も弱い聖徒にも、サタンや彼の天使たちは全くかなわない」(証5巻 p293, 294)。罪に対する勝利は、私たちがサタンに抵抗し、立ち向かっていくことを心から望んでいるのかということが要求されます。サタンに妥協し、彼の存在を許してしまう限り、私たちは失敗し続け、そして失望してしまうのです。私たちはサタンを実際よりももっと強いものだと見てしまいがちです。彼の誘惑はあまりに強くて私たちには到底抵抗できるものではないと思ってしまうがちです。私たちは、最も弱い神の子供たちに、神の力が何をなさることができるのかということに焦点を当てる必要があります。

この学びの山場として、古典キリストへの道の一部を見てみましょう。

「私はどうすれば神に自らをささげることができるでしょうと尋ねる人が多くあります。そして、自分を神にささげたいと望んでいながら、道徳的力が弱く、誘惑の奴隷となり、罪の生活の習慣に支配されています。どんな約束も決心も、砂の縄のように弱く、自分では自分の思想、衝動、愛情を制することはできません。こうして約束を破り、誓いを裏切って自分の誠実さに自信がもてなくなり、神は自分を受け入れてくださらないのではないかと思うようになります。しかし絶望するには及びません」(キリストへの道 p64)。これはまさに私たちが通ってきた道ではないですか？ 私たちは約束し、決心し、そして失敗します。私たちは、自分自身の考えや感情をコントロールできる十分な意志の力があると考えています。私たちが徹底的に自分の罪深い状態に気づかなければ、私たちの希望は全くないのです。私たちは、サタンが支配している墮落した世界に、墮落した性質を持って生まれてきました。私たちが完全に無力であることを認め、そして助けていただくためにキリストに目を向けるのなら、勝利のための扉は開かれているのです。では、絶望するには及ばないというのなら失敗し続けることから抜け出せる方法は何なのでしょう。か。「ただ必要なのはほんとうの意志の力とは何であるのかを知ることであり、意志とは人の性質を支配している力、決断力、選択の力であり、すべてはただ意志の正しい行動にかかっているのです。」神は人間に選択の力をお与えになりました。つまり人がそれを用いるようにお与えになったのであります。私どもは自分の心を変えたり、また自分で愛情を神にささげるこ

とはできません。けれども神に仕えようとすることはできます。意志は神にささげることができます。そうすれば神は私どものうちにお働きになって、神の喜びたもうように望み、また行方ようにしてください。こうして性質は全くキリストのみたまに支配されるようになり、キリストが愛情の中心となり、思想もまた彼と一致するようになります」(キリストへの道 p64, 65)。どれ程意志が正しく働くことにかかっているのかに気付いてください。それはすべてです。—幸福、平和、本当の成功、永遠の命—は、どのように私たちの意志を働かせるのかということによって決定されます。

神様は、はじめに人間を、神のかたちにかたどって創造されました。6千年間続いた罪は、その神のかたちをほとんど損なってしまいました。事実上、神のかたちが残されている部分は、私たちが選択の力を持っているということなのです。これが、私たちの生来の性質の中で最も神に似ているところなのです。選択する力は、アダムとエバに与えられた神の賜物です。そして神様は人類からそれを取り去ることをサタンにお許しになっていません。そして私たちはまだこの賜物を持っているのですから、私たちの前途には、永遠のすべてが開かれているのです。

ここで注意していただきたいことは、私たちの生まれながらの心は、愛情を神に差し上げることができないのです。なぜなら私たちは本来、神の方法を行うことを好みません。それは私たちには強制され、抑制されているように思えるのです。謙遜、へりくだり、そして服従を、生来の心はしたくないのです。けれども私たちは、神の方法を行うことを好まなくても、神にお仕えすることを選ぶことができます。私たちはいつも次のように祈ることができます。「主よ、私の意志をあなたにおささげできる意志を持たせてください。私は今、自分のしていることが本当に好きではありませんが、この古いやり方を手放すことができません。主よ、私の意志を喜んであなたにおささげすることのできる心を与えてください。」私たちはこの祈りを何度も繰り返さなければならぬかもしれませんが、根気よく続けましょう。

神様に意志をおささげした驚くべき結果を見てください。「人が自分自身の心をキリストにささげるとき、心はキリストの心と結合し、意志はキリストの意志に没入し、精神はキリストの精神と一つになり、思いはキリストのうちにとらわれて、わたし

私たちはキリストのいのちを生きる。これがキリストの義の衣を着ることである」(キリストの実物教訓 p292)。わたしたちのすべての性質は、キリストの支配下に置かれます。そして私たちの愛情、思考はキリストと調和するようになるのです。私はこれを別の言葉で「勝利」というのだと思います。私たちの歪んだ欠陥のある性質は、キリストの権威の下に置かれます。私たちはキリストが愛されるように愛することができます。なぜなら意志はキリストに属しているからです。私たちの態度、そして望みは天の住民と同じです。私たちが実際にガラスの道を歩く時、自然に天使たちのように生活していることに気づくのです。なぜなら私たちは彼らのように考えることを学んできたからです。

私たちが今なすべき一つのことは、神に屈服することです。それがなされる時、その他のすべてのことは丁度電車の運転車両に客車が引かれていくように続いていくのです。神様は難しい部分をしてください。神様は私の古い性質を変えてくださり、以前私が嫌っていたものを楽しみ、以前楽しんでいたものを嫌うようにしていただきます。私のすべきことは意志を神様にお捧げすることで、そして神様はそれをきよめてくださるのです。それを次のように言うことができます。主よ、私はこれをするをやめられません、けれどももしないことを選びます。私自身がそれをやめることはできません、けれどももしないことを選びます。ビーンバッグチェアーの青年は、罪に勝利することができませんでした。なぜなら彼は彼自身の意志の力に頼っていたからです。彼の意志は神に明け渡され、神に力を与えられなければなりませんでした。

私たちは次のように言いましょう。主よ、私は私の意志をサタンから取り、あなたに差し上げます。私はあなたにサタンの世界に渡るためのすべての橋を焼き尽くしていただくことを心から願っています。私の人生で行ってきた私の方法を快く手放します。私は上よりの生まれ変わりを望んでいます。そしてこの世にある何にも増してあなたご自身を求めます。神様がほとんど価値の無い者に何をなされるかということを見ることができるのは私たちの特権です。私の人生にいつも付きまとい悩まされていた罪に勝利し、悪い考えは心に入ることが許されなくなり、持っていた悪い習慣もこわされます。誤った方向に向かう傾向は正しい方向に向かうようにな

り、誤った感情も変わります。ここにキリスト・イエスにある新しい人が誕生するのです。私たちが神に「イエス」、そして自己に「ノー」と言い続ける限り、私たちの性質のすべてが変えられるのです。主は遠い昔ヤコブになさったように、私たち人間のすべての努力を全く無力にさせ、完全に神に頼ることができるようにしていただきます。

おわりに

私たちの人生、そして教会を生まれながらの肉の方法で運営するにはあまりにも遅すぎる時です。生来の性質でも、人生を成功させ、教会を運営していくことはできます。けれどもそれは天国への道ではありません。ただ霊の人だけが天に至るのです。

神様は私たちの味方であるということを決えず覚えていましょう。神様は私たちを退けるために私たちの罪を数え上げそれをながめていらっしゃるようなお方ではありません。神様は遠く離れた所から私たちに会うために駆け寄ってくださるのです。そして何にも増して神の家族に戻ってくることを歓迎してくださるのです。

漂流する生き方をやめましょう。たとえ私たちの望みにすべてが反しているように思える時でも、自ら率先して選択をしていきましょう。

罪に勝利する秘訣のすべてはこの一つの言葉一意ににあります。あなたの選択はどのようなものですか？私たちがするすべての選択は、意志が働いたことによるものなのです。サタンから意志を取り出しキリストにおささげするということを意識的に選び続けていましょう。

神様が、悪習慣の奴隷となった弱い罪人を引き受けてくださり、そのような人をサタンが無力になり支配できないような要塞に変えられることを見るのは何と驚くべきことでしょうか。神様は苦悶している意志を取られ、純潔な清い意志、神に力を与えられた意志、永遠に神の側を選ぶ意志、そして、罪を犯して神を辱める位なら死んだ方がましだという意志を与えてくださるのです。神様は何と偉大なことを成し遂げてくださったのでしょうか！ただその神にのみ栄光がありますように！

東日本の石が叫ぶ！ 大震災から学ぶ

金城 重博

人類の歴史にかつてなく、今後もないような大洪水があった！それは全人類に警告として全世界にその証拠が残っている。世界最古の「古事記」である聖書にそれが記されている。世界のあちこちにノアの洪水の証拠がたくさん残されているのは、神が聖書に言われていることは必ず起こるとい

うことの証明である。イエス・キリストは「人の子の現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう」（マタイ 24：37）と言われた。今後、スマトラや東日本の地震、津波をうわまわる「大地震」が起これるとルカによる福音書 21 章、黙示録には書いてある。「人々は世界に起ろうとする事を思い、恐怖と不安で気絶するであろう。もろもろの天体が揺り動かされるからである」ルカによる福音書 21:26。しかし、今度は水では滅ぼさないと契約の虹が出た。神が与えられた約束の虹だ。しかし、今度は火で地球は滅ぼされるという。

2 ペテロ 3:9-14 にこう書いてある。

「ある人々がおそいと思っているように、主は約束の実行をおそくしておられるのではない。ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである。しかし、主の日は盗人のように襲って来る。その日には、天は大音響をたてて消え去り、天体は焼けてくずれ、地とその上に造り出されたものも、みな焼きつくされるであろう。このように、これらはみなくずれ落ちていくものであるから、神の日の到来を熱心に待ち望んでいるあなたがたは、極力、きよく信心深い行いをしていなければならない。その日には、天は燃えくずれ、天体は焼けうせてしまう。しかし、わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天と新しい地とを待ち望んでいる。愛する者たちよ。それだから、この日を待っているあなたがた



は、しみもなくきずもなく、安らかな心で、神のみまえに出られるように励みなさい。」

過去からの警告を守った姉吉地区は、家屋損壊を免れていたりと、損害が少なかったという。

岩手県在住の友人から、DVDが送られてきた。今まではテレビやYouTubeで見えていたが、これは実に衝撃的であった。すべての人に見ていただきたいビデオである。

津波警報がだんだん強い警報に変わっていく。「波が引いています。津波に注意してください」。「高台に避難してください」。3分後に波が入り始めてきた。サイレンの音がだんだん大きくなる。ビデオを取っている人の声がだんだん悲痛な声に変わっていく。「大津波が来ました、注意してください。すごいすごい。うわー。地獄だ。防波堤を超える。明治津波以上だ！防波堤もなにもない。神も仏もないということはこのことだ。ナイアガラ、まるでナイアガラの滝のようだ。地獄だ、もう終わりだ。また悪魔の津波が来た。また来たぞ、悪魔だ。参った、参った。地獄だ、地獄だ。水が引く、全部やられた。財産全部やられた。畜生、川じゃありません。これ海です。津波です。明治の津波は一番大きいと聞いたが、…」

此处より下に家建てるな… 先人の石碑、集落救う

東日本巨大地震で沿岸部が津波にのみこまれた岩手県宮古市にあって、重茂半島東端の姉吉地区（12世帯約40人）では全ての家屋が被害を免



大津浪記念碑

高き住居は
児孫の和楽
想へ惨禍の大津浪
此処より下に家を建てるな

明治廿九年にも
昭和八年にも津
浪は此処まで来て
部落は全滅し生
存者僅かにも二人
後に四人のみ幾歳
経るとも要心何従

れた。1933年の昭和三陸大津波の後、海拔約60メートルの場所に建てられた石碑の警告を守り、坂の上で暮らしてきた住民たちは、改めて先人の教えに感謝していた。

宮古市の姉吉地区に建てられた大津波災害記念碑には「高き住居は児孫の和楽、想へ惨禍の大津波、此処より下に家を建てるな」と書かれている（写真1）。東京海洋大の調査によると、この地区では今回の大津波の最大遡上高は海拔約38.9mを記録し、明治三陸地震における国内の記録を塗り替えた。岩手県立博物館学芸員の大石雅之氏の報告によると、この石碑は海拔約60mの場所に建てられており、津波は石碑の手前約90mほどの地点まで達したとのことである。この石碑の下には家は建てられておらず、姉吉地区は今回の津波被災を免れた。

警告を無視して無事ではありえない!

黙示録 14:6-12 に、地上最後の三天使の使命が記されている。ノアの警告の使命のように、人類に臨もうとする恐るべき災害から逃れるための神の愛の警告である。神とその律法を無視する人類に対する憐みの警告の使命だ! しかもそれは、永遠の福音と黙示録 14:6 には紹介されている。

人間は、神があわれみのうちにお与えになった警告を拒否して無事ではあり得ない。ノアの時代に天からの使命が世に送られた。そして、彼らの救いは、彼らとその使命をどう受けるかにかかっていた。彼らが警告を拒否したために、神の霊は罪深い人類から退き、彼らは洪水によって滅びた。アブラハムの時代に、恵みは、ソドムの邪悪な住民に訴えることをやめた。そして、ロトと彼の妻と二人の娘のほかは、みな、天から降った火で焼き尽くされた。キリストの時代でもそうであった。神のみ子は、その時代の不信なユダヤ人に、「おまえたちの家は見捨てられてしまう」と言われた（マタイ 23:38）。同じ無限の力のおかたは、最後の時代をながめて、「自分らの救となるべき真理に対する愛を受けいれなかった」者について、「そこで神は、彼らが偽りを信じるように、迷わす力を送り、こうして、真理を信じないで不義を喜んでいたすべての人を、さばくのである」と宣言しておられる（テサロニケ第二・2:10-12）。彼らが神の言葉の教えを拒否するとき、神はみ霊を取り去って、彼らを彼らが好む惑わしのなかに捨てておかれるであろう。

編集後記

サンライズ・ミニストリーがここまで支えられたことをまずは神様に感謝すると同時に、皆様1人1人の祈りと支えに対して心から感謝するものです。「称えても、称えても、称え尽くせない」と水野源三と共に賛美したくなります。

「光陰矢の如し」と毎年、年末になると溜息をつきながら口に出す言葉です。特に聖書の預言を学んでいると、時の切迫をひしひしと感じると同時に、十分に効率を上げて出来なかった自分に対する失望感に襲われることがあります。神の憐みに逃げ場を見つけないことができることは、誠に感謝です。

今年、日本人は、3.11. という大惨事を経験させられ、世の人々の注目を浴びました。アメリカは、2001年、9.11 という惨事を経験し、世界は新しい方向へ転換したと言われています。自然災害の続発、格差暴動運動一労働組合、イスラム教の急激な台頭、欧米の経済危機は、いよいよ新世界秩序構築の必要を大きくさせるでしょう。

我々は新世界秩序—政治的、経済的、宗教的統一政府が平和と一致をもたらすものではないことを聖書の預言から知っているゆえに、決して喜ぶべき構想ではありません。それは「荒らす憎むべきもの」と聖書で言われています。すなわち、荒廃をもたらす神の憎むべきもの」です。反キリストの出現は、キリストの再臨が非常に近いことの明白なしるしです。

今年は「想定外」という言葉がよくつかわれました。

めまぐるしく変わる世界情勢は、混迷のように見えますが、次の約束があることを感謝します。「神は騒々しいこの世界の上に、王として君臨なさっている。神の目には万事が一目瞭然としており、偉大なる、静寂な永遠のかなたから、最善とみられるところを命令されるのである」ミニストリー・オブ・ヒーリング 303。

信仰と勇気が与えられますように!

金城重博

書籍案内

聖所からの光 上巻・下巻 (チャートブック)

金城 重博 著

再臨信仰の土台である聖所を、絵本のように、チャートと図解で研究する。上巻、第一部は聖所の目的と構造、奉仕。下巻、第二部は聖所の回復。複雑な神学を単純化。

1. 歴史的研究
2. キリスト論
3. クリスマン経験

BK-LFS1 : 上巻 500円

BK-LFS2 : 下巻 500円



キリスト教とはどんな教えなのか? 上巻・下巻

及川 吉四郎 著

日本人牧師による日本人のためのわかりやすいキリスト教教理。真理研究に浮かぶ質問が親切丁寧に答えられている。教理を日本人に、初歩から理解できるように提示している。



BK-K10K : 上巻1200円

BK-K20K : 下巻1200円

新しい生き方シリーズ

健康、教育、生活、人生のあらゆる境遇において聖書は的確な指導をしています。

- No.1 食事と健康
- No.2 人間関係の秘訣

他シリーズ拡大予定。



無料配布

玉手箱をあなたにも 當 義弘 著

余命一年のがん宣告—自然の恵みが奇跡を起こす。脂肪肉腫を患った著者が選択したのは、手術・抗がん剤・放射線の三大治療ではなく、神にすべてをゆだねて安らぎを得る「自然療法」であった。あれから約4年。がんの進行を止めた聖書の教えが、人々を病から、そして地球の終末から救う。



BK-ATA : 1500円

神の驚くべき恵み E・G・ホワイト 著

神の驚くべき恵みは人間の心にとどのように働くか。日毎のマナ。

EG-GAG : 1300円

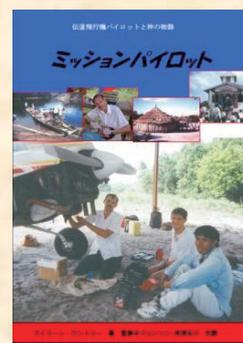


ミッションパイロット

アイリーン・ラントリー 著

なぜ、私たちは神様が私たちの人生において奇跡を行われると驚くのでしょうか? この“ミッションパイロット”は神様の偉大な働きと導き、デイビッド・ゲイツ夫妻の人生への神様の驚くべき介入を世の人々に叫んでいます。

BK-PILOT : 650円



「アドベンチスト信徒フォーラム」第3号が出ました。 不定期発行: 無料

預言の研究、教理について自由に発表できる場。購読したい方は、下記の連絡先にお申し込みください。

クリスマスの讃美とメッセージ収録集

2011年12月12日に、沖縄市でもたれましたサンライズミニストリー主催初のクリスマスプログラムの収録集です。

収録曲: クリスマスキャロル、一羽の雀、まぶねの中に、エホバは羊飼い、The Lord is Coming、ハレルヤコーラス他



CD(二枚組): 400円

DVD(一枚): 400円

2011年秋のセミナー収録集

“聖所からの光” 金城重博

“切迫する危機に備える” デイビッド・カン

- CD 【23枚】価格: 4,600円 (音声)
- DVD 【20枚】価格: 8,000円 (動画)
- MP3 【CD-R2枚】価格: 1,840円 (音声)

サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村今泊1471 TEL 0980-56-2783 FAX 0980-56-2881

Email: contact@srministry.com HP: www.srministry.com 郵便振込番号: 02080-0-12121 サンライズミニストリー